

やさしさ ふれあい 支え合いのまちづくり
～安心できるまち 磐田～

地域福祉活動 地区別の指針

第4次 磐田市地域福祉活動計画 別冊資料
(地域福祉懇談会等 報告書)



社会福祉法人 磐田市社会福祉協議会

令和5年3月

磐田市社会福祉協議会
マスコット
キャラクター ふくびー



目 次

| | |
|-------------------|---|
| 地域福祉活動 地区別の指針について | 1 |
|-------------------|---|

各地区の報告書

| | |
|-------|----|
| 見付地区 | 2 |
| 中泉地区 | 6 |
| 南地区 | 10 |
| 長野地区 | 14 |
| 大藤地区 | 17 |
| 向笠地区 | 20 |
| 岩田地区 | 23 |
| 西貝地区 | 27 |
| 御厨地区 | 31 |
| 南御厨地区 | 35 |
| 田原地区 | 39 |
| 今之浦地区 | 43 |
| 福田地区 | 46 |
| 竜洋地区 | 50 |
| 豊田東地区 | 54 |
| 井通地区 | 56 |
| 青城地区 | 59 |
| 富岡地区 | 62 |
| 池田地区 | 66 |
| 豊岡地区 | 70 |

地域福祉活動 地区別の指針について

1 地域福祉活動 地区別の指針

地区社会福祉協議会・地域づくり協議会福祉部の20地区を単位として、各地区の多様な主体による地域福祉活動の現状を整理し、取り組み方針を見出し、今後4年間の地区活動の推進目標を立案するために懇談会等を開催しました。また、中学生以上全住民アンケートの結果を活用して地域福祉の課題集約を行った地区（長野、豊田東）もあります。

懇談会やアンケートから見えてきた地域課題のうち、市全域で取り組むべき内容については磐田市地域福祉計画・地域福祉活動計画に内容を盛り込んでいます。また、それぞれの地区の現状をもとに住民同士による対話によって「目指す地域の姿」を協議していただき、その成果を今後の地区活動を行う上での「指針」としていただけるよう、本報告書を作成しました。

2 報告書の地区での活用方法

人口規模や高齢化率、住民の居住年数、各種団体等の活動状況など、各地区にはそれぞれに特徴があり、解決すべき課題や優先順位に違いがあります。第4次磐田市地域福祉計画・地域福祉活動計画は、市全域を範囲としていますが、地区ごと実情に応じた個別の実践計画を策定し、地域住民や各種団体等が協働し、役割分担のもと具体的な活動を展開していくことが求められます。

本報告書に基づきそれぞれの地区で地域福祉活動が展開されるとともに、他地区の状況について知ることができる参考資料として活用していただき、市内全域の地域福祉活動が盛んになることを目指します。

また、市社協は各地区の住民主体による地域福祉活動が円滑に行われるよう、情報提供や研修等の実施、課題解決に向けた協議や懇談会等の開催、新たな活動創出の支援を行います。

令和5年3月
社会福祉法人
磐田市社会福祉協議会

地域福祉懇談会 報告書

| | | | |
|------|--|---|--|
| 地 区 | 見付地区 | 福祉課担当 | 金子博則 |
| | | 市社協担当 | 山田佳名子 |
| 開催日 | 令和4年11月12日(土) 午後1時30分 ~ 午後3時30分 | | |
| 会 場 | 見付交流センター | | |
| テーマ | つながりをつくるために何ができるかな？ | | |
| 主 催 | 見付地区社会福祉協議会 | | |
| 参加者 | <ul style="list-style-type: none"> ・58人 | | |
| | <p>【内訳】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域づくり協議会・自治会役員等 13人 ・見付福祉の会 10人 ・個人会員 1人 ・シニアクラブ 6人 ・高校生 12人 ・民生委員・児童委員 4人 ・福祉委員 8人 ・行政 2人 ・地域包括支援センター 1人 ・市社協 1人 | | |
| 現状分析 | ※基準日：令和4年9月末現在（前計画策定年との比較 平成29年9月末現在） | | |
| | 人 口 | 24,480人 (24,493人) | 年少人口 0～14歳 3,298人 (3,482人) |
| | 世 帯 数 | 10,415世帯 (9,795世帯) | 生産年齢人口 15～64歳 14,602人 (14,794人) |
| | 高齢化率 | 26.9% (25.4%) | 老年人口 65歳以上 6,580人 (6,217人) |
| | 自治会数 | 26自治会 (26自治会) | 上記のうち 75歳以上 3,432人 (3,165人) |
| | 地区の 生活課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・お節介？構いすぎない？丁度いい加減のご近所との距離感とは ・若い人の悩み、担い手不足、若い人たちとのつながりが希薄 ・支援が必要なのにたどり着けない高齢者がいる | |
| | 地区の 社会資源 (施設) | <p>(地域の福祉活動の拠点となる施設等も含める)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見付交流センター ・城山・向陽地域包括支援センター ・有料老人ホーム(1)、サービス付高齢者向け住宅(3)、看護小規模多機能(1) ・公立保育園(1)、小規模保育所(2)、認証保育園(1)、私立保育園(3)、公立幼稚園(1)、私立幼稚園(1)、公立小学校(2)、公立中学校(1)、私立中学校(1)、県立高等学校(1)、私立高等学校(1)、県立袋井特別 | |

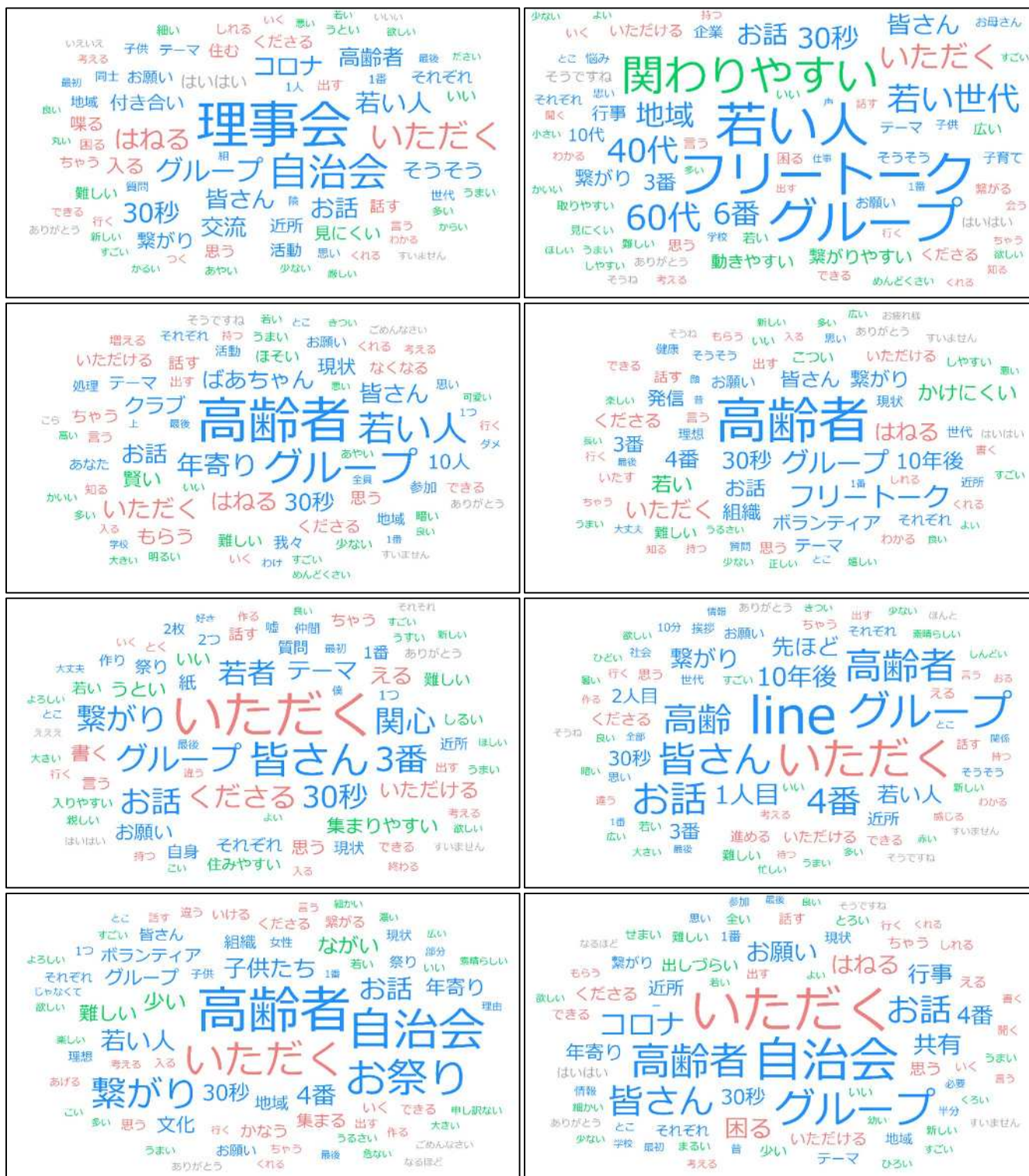
| | | |
|--|-------------|---|
| | | 支援学校磐田分校 ・緑ヶ丘学園、学舎いろいろ ・各自治会の公会堂、自治会館、老人憩いの家 ・ワークピア磐田・中央図書館・かぶと塚公園・中央公園 ・磐田東大久保運動公園・つつじ公園 ・磐田城山球場・見付宿場通り・旧見付学校附磐田文庫 ・旧赤松家記念館 ・見附宿いっぷく処 ・いこい茶屋 ・開業医、商店、コンビニ など |
| | 地区の社会資源(活動) | ・地域づくり協議会専門部会事業(地区交流部会、地区振興部会、子ども若者健全育成部会、防災部会、環境安全部会、福祉部会(地区社協含む)・交流事業(祭り その他)・見付生活応援くらぶ・救急医療情報キット・シニアクラブ(14)・地区高齢者サロン(2)・自治会高齢者サロン(12)・地区子育てサロン(3) |

| | |
|--------------------------------|--|
| 目指す姿 (こんな地区にしたい) | (地区目標) やさしさ ふれあい 支え合いのまちづくり |
| 地区に必要な社会資源 (こんな活動があったらいいな) | <ul style="list-style-type: none"> ・若い世代が気軽に参加でき、現状を知ってもらえる活動 ・垣根がなく、気軽に相談できる場所 ・「支え合う 助け合う」気持ちを持つリーダーが育つこと ・子育てサロン活動の継続 ・祭り文化の継承 ・世代交代をした後も良い繋がりが続いていく ・誰でも参加できるスポーツやレクリエーションをとおして、多世代交流ができること ・移動販売 ・地区内に「福祉ボランティア」の組織を作る ・いろいろな情報を身近に感じる事 |
| 今後の取り組み (まずは何から始める。何かからできる) | <ul style="list-style-type: none"> ・若い人の意見を聞く ・SNSの発信を若い人向けにする ・接着剂的なイベントで繋がりをつくる ・対面とLINEを併用して、積極的なコミュニケーションをとる ・若い人に「高齢者向け・スマホ教室」の講師をやってもらう ・各世代のニーズを掘り起こし、仲間を増やす ・あいさつをし合う ・世代を超えた集まりを、それぞれの自治会でやってみる ・役員退任後もボランティアや地区社協等へ関わりを持ってもらう |

| | |
|-----------------------------|---|
| <p>市全体に 共通する 課題</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・小中高（教育）の場で地域活動の大切さを教えて欲しい。 ・行政、学校、企業、警察などとの連携 ・SNSの活用と、SNS以外の発信の併用 |
|-----------------------------|---|

テキストマイニング

グループでの話し合いの内容を見える化したものです。出現頻度が高い単語ほど大きな字で表示されます。（単語の色：青…名詞 赤…動詞、緑…形容詞 灰…感動詞）



懇談会の様子



地域福祉懇談会 報告書

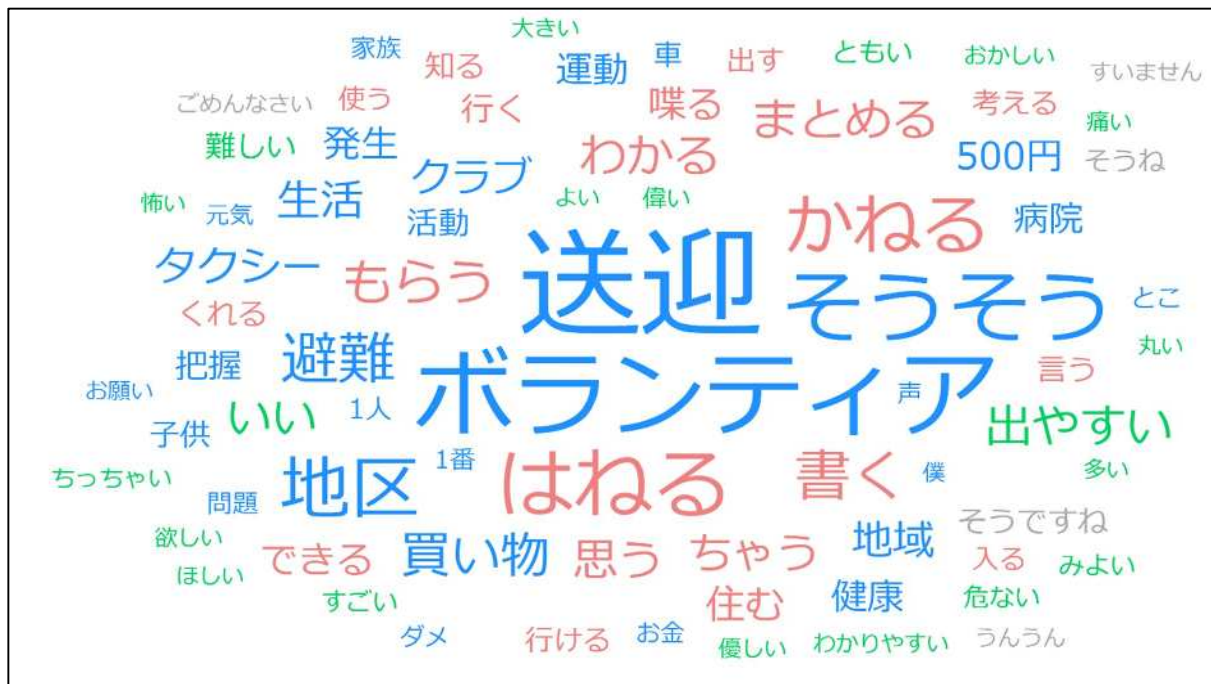
| | | | | |
|---------------------|--|--|------------------|----------------------|
| 地 区 | 中泉地区 | | 福祉課担当 | 小栗麻理 |
| | | | 市社協担当 | 村松勇吾 |
| 開催日 | 令和4年7月17日(日) 午後1時30分 ~ 午後3時30分 | | | |
| 会 場 | i プラザふれあい会議室 1.2.3 研修室 生活訓練室 | | | |
| テーマ | 「地域で元気に過ごすために」 | | | |
| 主 催 | 中泉地区地域づくり協議会福祉部会（地区社協） | | | |
| 参加者 | 70人 | | | |
| | <p>【内訳】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域づくり協議会・自治会役員等 11人 ・地域づくり協議会福祉部（地区社協等） 11人 ・民生委員・児童委員 9人 ・福祉委員 9人 ・高齢者サロン代表 5人 百歳体操代表 8人 シニアクラブ3人 ・福祉事業所 7人 ・行政 3人 ・地域包括支援センター 2人 ・市社協 2人 | | | |
| 現状分析 | ※基準日：令和4年9月末現在（前計画策定年との比較 平成29年9月末現在） | | | |
| | 人 口 | 18,666人 (18,499人) | 年少人口 0～14歳 | 2,320人 (2,437人) |
| | 世 帯 数 | 8,635世帯 (8,114世帯) | 生産年齢人口 15～64歳 | 10,936人 (10,963人) |
| | 高齢化率 | 29.0% (27.5%) | 老年人口 65歳以上 | 5,410人 (5,099人) |
| | 自治会数 | 27自治会 (26自治会) | 上記のうち 75歳以上 | 2,904人 (2,655人) |
| | 地区の 生活課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・移動手段に困った方への支援が少ない ・地域活動をしている組織の人材が固定化、減少傾向にあり、次世代の人材育成も難しい現状 ・サロン等の参加者が固定化、減少傾向にある ・持続可能な組織運営 ・横のつながりが薄く、組織同士でつながりにくい | | |
| | 地区の 社会資源 (施設) | <p>(地域の福祉活動の拠点となる施設等も含める)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・i プラザ、交流センター（中泉、ふれあい） ・各自治会の公会堂、自治会館、老人憩いの家 ・開業医、薬局、特養、老健、サ高住、GHほか多数 | | |
| 地区の 社会資源 (活動) | <ul style="list-style-type: none"> ・地域づくり協議会福祉部活動（小地域福祉ネットワーク活動、子育て、高齢者、障がい児者、健康推進の支援活動） ・子育てサロンいずみっこ ・赤ちゃん広場 ・地区高齢者サロンいずみ（中泉交流C、i プラザ） | | | |

| | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・認知症講座修了者グループ(輪の会、ホッとコーヒー) ・作品づくりの会 ・地区高齢者サロンもぐもぐ ・自治会高齢者サロン(19サロン、概ね月1回開催) ・シニアクラブ10 ・転倒予防活動3 ・ラジオ体操 ・いきいき百歳体操17 子ども食堂(2か所) ・公園の掃除 ・スクールガード ・青パト ・駅前広場 ・クスノキ市場 ・あいさつ運動 ・輪花(居場所) ・きずなの会(歌声サロン) |
|--|---|

| | |
|---|--|
| <p>目指す姿</p> <p>(こんな地区にしたい)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・地域を我が事として考えることができる地域 ・互いに助け合って暮らせる地域 ・孤立がない地域 ・多世代交流ができる地域 ・人材が豊富な地域 ・住民全員が活躍できる地域 ・認知症の理解がある地域 ・子どもから高齢者まで見守りができる地域 |
| <p>地区に必要な社会資源</p> <p>(こんな活動があったらいいな)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・買物やサロンに行くための移動手段に困った方への移動支援 ・常時気軽に集まれる居場所 ・地域と福祉施設が交流できる場 ・問題を未然に防ぐネットワーク ・楽しいと思える企画、活動 ・世代を超えた交流 ・次世代の人材育成をしていくためのシステム、仕組み ・男性の参加が多いサロン |
| <p>今後の取り組み</p> <p>(まずは何から始める。何かからできる)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の実情を把握する ・移動に困る方への支援を考える ・活動に参加できない方へのサポート ・情報をわかりやすく発信 ・地域と福祉関係機関との連携 ・見守り、声掛け活動、相談を聞く、つなげる ・住民の方に地域活動の情報提供、PR ・小地域ネットワーク活動の推進、自治会毎の福祉推進会議の開催 |
| <p>市全体に共通する課題</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・移動手段に困った方への支援 ・地域活動をしていく人材の育成、組織づくり ・孤立や孤独による問題を防ぐネットワーク |

テキストマイニング

グループでの話し合いの内容を見える化したものです。出現頻度が高い単語ほど大きな字で表示されます。(単語の色：青…名詞 赤…動詞、緑…形容詞 灰…感動詞)



地域活動の様子



中泉地区 居場所交流会



高齢者サロン 本町ふれあいサロン



子育てサロン いずみっこ

地域福祉懇談会 報告書

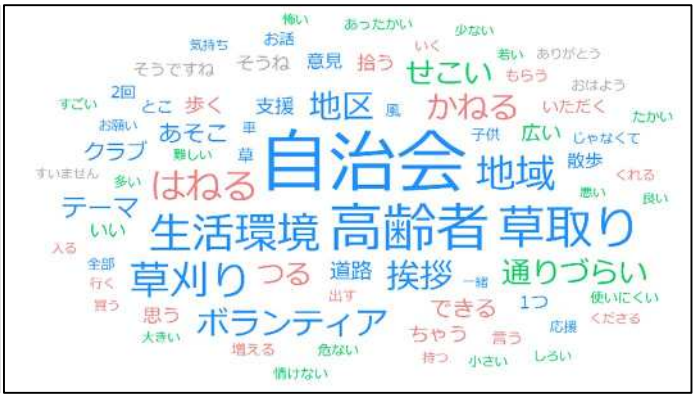
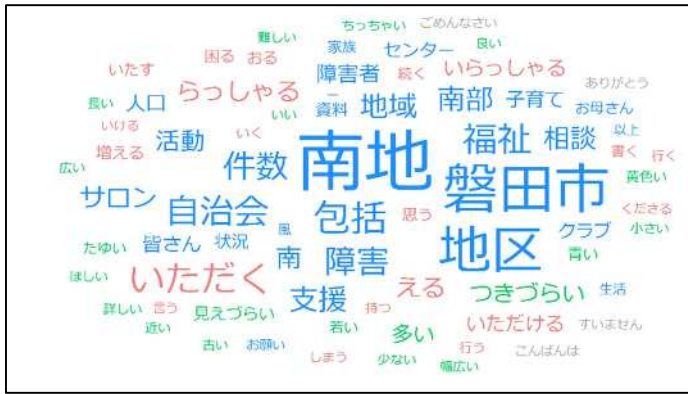
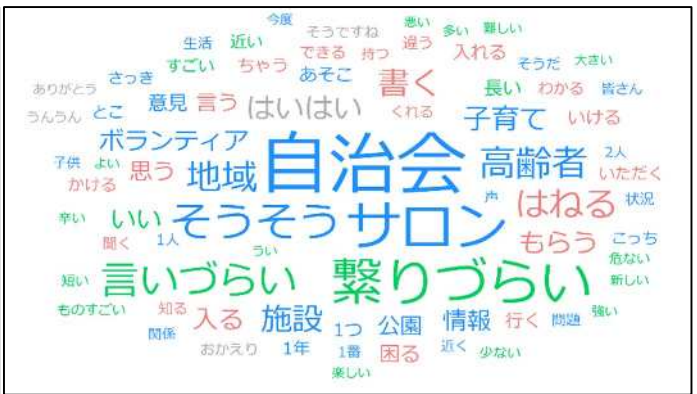
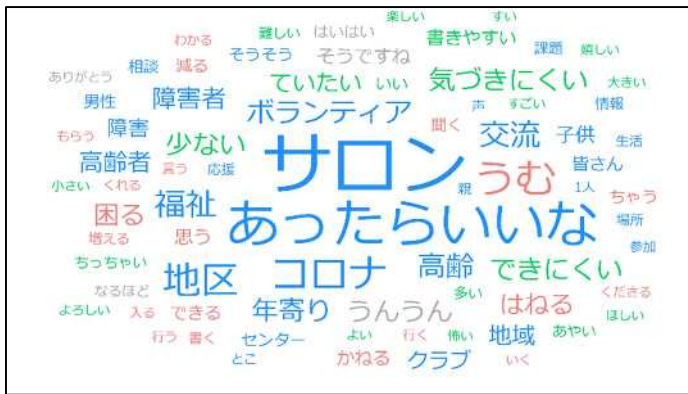
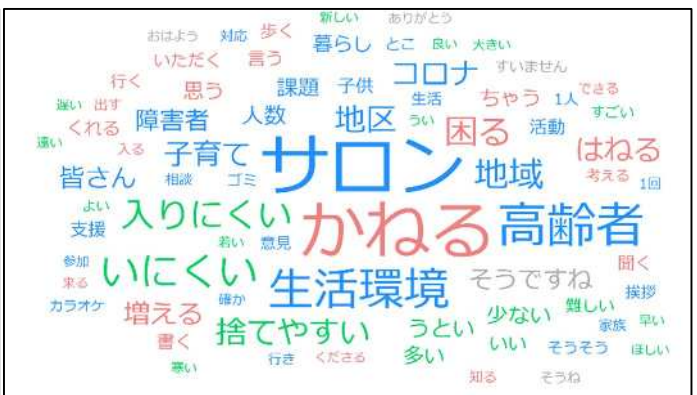
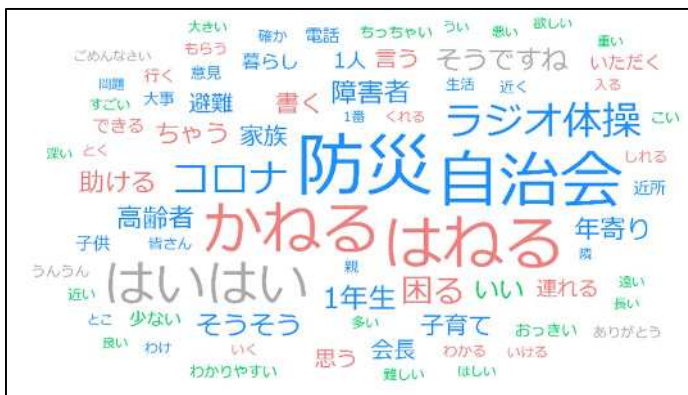
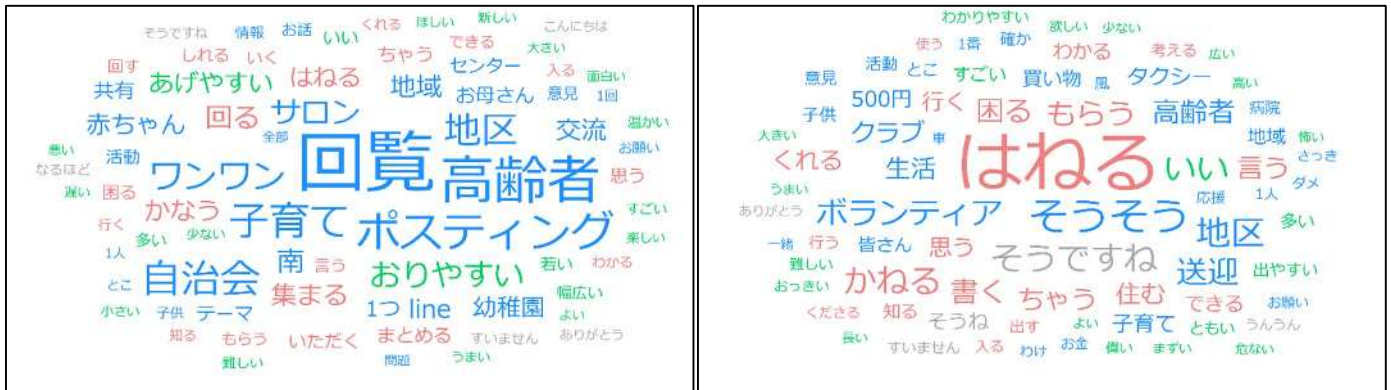
| | | | | |
|------|---|--|------------------|--------------------|
| 地 区 | 南地区 | | 福祉課担当 | 大橋あゆみ |
| | | | 市社協担当 | 高木あおい |
| 開催日 | 令和4年9月13日(火) 午後6時30分 ~ 午後8時30分 令和4年9月29日(木) 午後6時30分 ~ 午後8時30分 | | | |
| 会 場 | 南交流センター 2階 大会議室 | | | |
| テーマ | 安心して南地区で生活し続けるために | | | |
| 主 催 | 福祉課、社会福祉協議会 | | | |
| 参加者 | 48 人（行政職員等、地区社協役員等2回出席の方あり） | | | |
| | <p>【内訳】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域づくり協議会・自治会役員等 2人 ・地域づくり協議会福祉部（地区社協等） 11人 ・民生委員・児童委員 7人 ・福祉委員 12人 ・行政(増進・子ども未来、福祉)3人 ・地域包括支援センター1人 ・南部障害者相談支援センター1人 ・市社協 1人 | | | |
| 現状分析 | ※基準日：令和4年9月末現在（前計画策定年との比較 平成29年9月末現在） | | | |
| | 人 口 | 11,841人 (11,635人) | 年少人口 0～14歳 | 1,487人 (1,540人) |
| | 世 帯 数 | 5,246世帯 (4,884世帯) | 生産年齢人口 15～64歳 | 7,370人 (7,260人) |
| | 高齢化率 | 25.2% (24.4%) | 老年人口 65歳以上 | 2,984人 (2,835人) |
| | 自治会数 | 16自治会 (16自治会) | 上記のうち 75歳以上 | 1,473人 (1,231人) |
| | 地区の 生活課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・独居高齢者の対応（災害時・急病時・ゴミ捨て、庭木の管理等生活の困りごと） ・移動手段の不足（買い物、通院、サロン） ・福祉活動、自治会役員等の後継者不足 ・子育てで身近に頼る人がいない。 ・子育てに関する情報が入らない。 ・子どもの安全な遊び場がない ・空き家の増加 ・お店等近くにない ・コロナ禍でお祭りや自治会行事中止、転入者など交流の場がない。 ・働き世代のつながりがない。 | | |

| | | |
|--|---------------------|--|
| | 地区の 社会資源 (施設) | (地域の福祉活動の拠点となる施設等も含める) <ul style="list-style-type: none"> ・南交流センター ・於保農村婦人の家 ・磐田市急患センター ・南部包括支援センター ・南部障害相談支援センター ・訪問看護 ・円在宅医療クリニック ・聖隷びゅあセンター ・かるみあ ・チャレンジ工房磐田 ・静岡産業大学 ・子育て支援センターのびのび ・自治会公会堂 ・すずかけヘルスケアホスピタル |
| | 地区の 社会資源 (活動) | <ul style="list-style-type: none"> ・南地区地域づくり協議会 ・16自治会 ・地区社協(健康講座、子育て支援、せいかつ応援ご近所クラブ) ・ふれあいサロン(14ヶ所) ・シニアクラブ ・子育てサロン(1ヶ所) |

| | |
|---|---|
| 目指す姿 (こんな地区 にしたい) | <ul style="list-style-type: none"> ・移動手段に困らない地区(運転免許証を返納しても移動に困らないように) ・見守りで孤独死がない地区 ・共働き世帯を助け、地域で子育て支援ができる地区 ・外灯の整備により犯罪が起きにくい地区 ・障がいの有無にかかわらず、気軽に声が掛け合える地区 |
| 地区に 必要な 社会資源 (こんな活動 があったら いいな) | <ul style="list-style-type: none"> ・買い物支援(スーパー等への送迎、移送販売) ・隣近所の見守りの組織化 ・子育て支援で家族以外の助っ人、気軽に子どもを預けられる場 ・人目が多い安全な遊び場 ・デマンドタクシーに変わる移動手段(静岡市のAI導入) ・交流センターで「なんでも相談」 ・出張福祉サービス手続き |
| 今後の 取り組み (まずは何から 始める。何か らできる) | <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な懇談会の開催で地域の活動者がつながる場 ・買い物支援、移動販売等の検討 ・高齢者サロンの参加者を増やす方法の検討(特に男性参加者) ・情報発信の方法検討(LINEやメールの活用) ・多世代交流(高齢者と子どもの交流)、親子で参加できる地域活動 ・生活応援ご近所クラブの支援員を増やす |
| 市全体に 共通する 課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者等への福祉サービス手続きの代行や出張窓口 ・核家族世帯の子育て支援 ・地域活動の担い手不足 ・デマンドタクシーの利便性向上 ・新たな移動手段の検討 ・空き家の活用 |

テキストマイニング

グループでの話し合いの内容を見える化したものです。出現頻度が高い単語ほど大きな字で表示されます。単語の色：青…名詞 赤…動詞、緑…形容詞 灰…感動詞



中学生以上全住民アンケート 報告書

| | | | | |
|------|--|--|------------------|--------------------|
| 地 区 | 長野地区 | | 福祉課担当 | 大橋あゆみ |
| | | | 市社協担当 | 高木あおい |
| 実施期間 | 令和4年1月8日(土) ～令和5年1月15日(日) | | | |
| 主 催 | 長野地域づくり協議会 住民アンケート実行委員 構成(16人) ・地域づくり協議会役員9人 ・長野小学校PTA正副会長 ・PTA会長OB ・市社協(SC) ・南部中学校PTA正副会長 ・地区社協前会長 | | | |
| 参加者 | 5,008人 (アンケート回収数) ・回収率 97.2 % | | | |
| 現状分析 | ※基準日：令和4年9月末現在 (前計画策定年との比較 平成29年9月末現在) | | | |
| | 人 口 | 6,401人 (6,604人) | 年少人口 0～14歳 | 625人 (775人) |
| | 世 帯 数 | 2,582世帯 (2,450世帯) | 生産年齢人口 15～64歳 | 3,484人 (3,618人) |
| | 高齢化率 | 35.8% (33.48%) | 老年人口 65歳以上 | 2,292人 (1,414人) |
| | 自治会数 | 9自治会 (9自治会) | 上記のうち 75歳以上 | 1,199人 (977人) |
| | 地区の 生活課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・買い物・通院など移動支援 ・安全な通学路や道路の確保 ・見守りなど高齢者生活支援 ・災害に備える防災活動 ・子育て相談ができる場の不足 | | |
| | 地区の 社会資源 (施設) | (地域の福祉活動の拠点となる施設等も含める) <ul style="list-style-type: none"> ・デイサービス(2) ・介護支援事業所(3) ・クリーンセンター、磐田市厚生会館、磐田温水プール ・長野小学校 ・南部中学校 ・子育て支援センターみちるーむ ・長野交流センター、各自治会公会堂 | | |
| | 地区の 社会資源 (活動) | <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者サロン ・百歳体操 ・地域づくり協議会 ・せいかつ応援倶楽部 | | |

| | |
|--|--|
| <p>目指す姿 (こんな地区 にしたい)</p> | <p>住民同士が地区の未来について考え話し合い、行動して、安心して 住み続けることができる地区</p> |
| <p>地区に 必要な 社会資源</p> <p>(こんな活動 があったら いいな)</p> | <ul style="list-style-type: none"> • 新たな移送サービス • IT活用した住民向け広報 ⇒地域・自治会活動や回覧板の LINE 活用で情報伝達を迅速に！ • 交流センター・学校・公会堂での多世代交流 • 防災訓練への中学生の参加 • 安全な通学路や道路の確保 |
| <p>今後の 取り組み</p> <p>(まずは何から 始める。何か らできる)</p> | <ul style="list-style-type: none"> • アンケート結果からできることの模索 • 地域活動や防災訓練への中高生の参画 • 自治会活動や情報発信の方法の見直し • IT活用した住民向け広報 |
| <p>市全体に 共通する 課題</p> | <ul style="list-style-type: none"> • 安全な通学路や道路の確保 • 買い物・通院等移動支援 • 災害に備える防災活動 • IT活用した住民向け広報 • 空き家の管理 |





長野地区 地域活動の過不足(年代別)

活動が足りない ↑ ↓ 活動ができている

| | 10~20代 | 30~50代 | 60~70代 | 80歳以上 |
|------------------|--------|---------------------|---------------------|---------------------|
| 1 安全な通学路や道路の確保 | 42.4 | 安全な通学路や道路の確保 66.7 | 64.2 | 買物・通院など移動支援 68.7 |
| 2 買物・通院など移動支援 | 38.6 | 買物・通院など移動支援 61.8 | 安全な通学路や道路の確保 61.5 | 農地維持や荒廃農地解消 52.0 |
| 3 災害に備える防災活動 | 34.9 | 高齢者生活支援活動 54.1 | 高齢者生活支援活動 57.5 | 高齢者生活支援活動 51.9 |
| 4 防火・消火など消防活動 | 34.2 | IT を活用した住民向け広報 53.4 | 空き家の管理支援活動 50.1 | 空き家の管理支援活動 48.0 |
| 5 子育ての相談ができる場 | 34.1 | 災害に備える防災活動 44.6 | 災害に備える防災活動 48.8 | 安全な通学路や道路の確保 47.0 |
| 6 高齢者生活支援活動 | 33.5 | 子どもの安全を支える活動 44.0 | 子育ての相談ができる場 46.5 | 美化・環境保全活動 41.8 |
| 7 IT を活用した住民向け広報 | 33.3 | 子育ての相談ができる場 38.4 | 農地維持や荒廃農地解消 46.4 | 日常的な悩み相談の場 41.3 |
| 8 農地維持や荒廃農地解消 | 28.8 | 防火・消火など消防活動 38.3 | 子どもの安全を支える活動 44.9 | 子どもの安全を支える活動 40.4 |
| 9 交通安全に関する活動 | 28.0 | 空き家の管理支援活動 37.7 | 防火・消火など消防活動 43.1 | 災害に備える防災活動 37.8 |
| 10 見回りなどの防犯活動 | 27.0 | 農地維持や荒廃農地解消 34.7 | 日常的な悩み相談の場 39.5 | 子育ての相談ができる場 36.1 |
| 11 子どもの安全を支える活動 | 26.3 | 見回りなどの防犯活動 34.0 | 美化・環境保全活動 37.0 | 交通安全に関する活動 33.7 |
| 12 空き家の管理支援活動 | 25.8 | 交通安全に関する活動 31.7 | 子ども対象の行事 31.4 | 防火・消火など消防活動 33.6 |
| 13 美化・環境保全活動 | 23.4 | 美化・環境保全活動 28.4 | 見回りなどの防犯活動 30.6 | 見回りなどの防犯活動 28.1 |
| 14 日常的な悩み相談の場 | 22.0 | 子ども対象の行事 22.3 | 交通安全に関する活動 28.9 | 子ども対象の行事 27.8 |
| 15 子ども対象の行事 | 19.0 | 日常的な悩み相談の場 21.5 | 保護者が交流できる場 27.4 | 中学の部活動への協力 26.9 |
| 16 中学の部活動への協力 | 18.9 | 中学の部活動への協力 20.4 | 地区内の情報共有 24.2 | 保護者が交流できる場 26.2 |
| 17 保護者が交流できる場 | 15.1 | 地区内の情報共有 16.2 | IT を活用した住民向け広報 23.9 | 地区内の情報共有 21.6 |
| 18 夏まつりなど地域イベント | 10.6 | 保護者が交流できる場 12.7 | 中学の部活動への協力 23.8 | IT を活用した住民向け広報 11.2 |
| 19 生涯学習や生きがいづくり | 10.2 | 生涯学習や生きがいづくり 2.5 | 健康体操など健康づくり 8.4 | 生涯学習や生きがいづくり 8.9 |
| 20 地域の伝統文化の継承 | 9.6 | 健康体操など健康づくり 2.0 | 生涯学習や生きがいづくり 8.1 | 地域の伝統文化の継承 8.1 |
| 21 地区内の情報共有 | 5.0 | 地域の伝統文化の継承 -0.6 | 地域の伝統文化の継承 3.8 | 健康体操など健康づくり 5.7 |
| 22 健康体操など健康づくり | 4.3 | 高齢者対象の行事 -2.9 | 夏まつりなど地域イベント -4.8 | 運動会など体育行事 3.8 |
| 23 運動会など体育行事 | 2.0 | 夏まつりなど地域イベント -11.2 | 高齢者対象の行事 -5.0 | 高齢者対象の行事 3.1 |
| 24 高齢者対象の行事 | 1.9 | 運動会など、体育行事 -22.0 | 運動会など体育行事 -9.3 | 夏まつりなど地域イベント -1.5 |

地域福祉懇談会 報告書

| | | | | |
|------|--|--|------------------|--------------------|
| 地 区 | 大藤地区 | | 福祉課担当 | 牧之瀬 輝 |
| | | | 市社協担当 | 林 雅之 |
| 開催日 | 令和4年6月～7月 自治会ごと開催 | | | |
| 会 場 | 各区（自治会）公会堂 | | | |
| テーマ | お困りごとは何ですか？ | | | |
| 主 催 | 大藤地区社会福祉協議会 | | | |
| 参加者 | 自治会ごとに参加 | | | |
| | 【内訳】 ・自治会長、副自治会長、福祉委員、民生委員・児童委員、班長、地区社協役員 ・行政、市社協、包括支援センター出席なし | | | |
| 現状分析 | ※基準日：令和4年9月末現在（前計画策定年との比較 平成29年9月末現在） | | | |
| | 人 口 | 4,406人 (4,415人) | 年少人口 0～14歳 | 582人 (584人) |
| | 世 帯 数 | 1,696世帯 (1,606世帯) | 生産年齢人口 15～64歳 | 2,359人 (2,476人) |
| | 高齢化率 | 33.3% (30.7%) | 老年人口 65歳以上 | 1,465人 (1,355人) |
| | 自治会数 | 14自治会 (15自治会) | 上記のうち 75歳以上 | 661人 (613人) |
| | 地区の 生活課題 | ・自治会単位で気軽に集える場所がない ・公共交通機関が少ない、移動販売の利用を進めたい ・災害時の要支援者のシステムづくりを進めたい ・外国人とコミュニケーションが取りづらい | | |
| | 地区の 社会資源 (施設) | （地域の福祉活動の拠点となる施設等も含める） ・大藤交流センター、各区（自治会）公会堂 ・大藤こども園 ・大藤小学校 ・あおばのさと ・わかばのさと ・いわしろ ・おおふじ学園 ・ケアハウス花みずき ・特別養護老人ホーム遠州の園 ・おおふじ五幸ホーム ・グループホーム和らぎの家 ・あいの街大久保 ・磐田市立総合病院 ・磐田原病院 | | |
| | 地区の 社会資源 (活動) | ・大藤みんなの会 ・大藤こすもす ・シニアクラブ ・あいさつありがとうの日 ・救急医療情報キット（配布・メンテナンス） | | |

| | |
|--|--|
| <p>目指す姿 (こんな地区にしたい)</p> | <p>住民同士のコミュニケーションの向上を図る 見守り体制の充実を図る 身近な生活課題への相談・対応ができる仕組みをつくり、子どもから高齢者まで安心して生活できる環境づくりを進める</p> |
| <p>地区に必要な社会資源 (こんな活動があったらいいな)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・大藤みんなの会、大藤こすもす、公会堂を解放した居場所 ・シニアクラブ ・デマンドタクシー ・高齢者世帯（昼間1人世帯を含む）の見守り ・救急医療情報キットのメンテナンス ・災害時要支援者を支援できる仕組みづくり ・外国人とのコミュニケーション向上 ・移動販売（とくし丸、遠鉄等） ・せいかつ応援倶楽部 ・地域住民と地区内の福祉・医療機関との交流と連携 |
| <p>今後の取り組み (まずは何から始める。何かからできる)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・自治会ごとの懇談会の実施報告と課題整理 地区社協定例会、福祉委員会、民生委員・児童委員定例会 交流センターだより ・地区社協と福祉・医療機関とのネットワーク会議実施 ・大藤みんなの会、大藤こすもすの周知とサロンの開催方法についての検討（サロンの出張開催の検討） ・シニアクラブの位置づけ、あり方についての検討 ・デマンドタクシーの利用促進と課題整理 ・移動販売の周知 大藤みんなの会と移動販売のコラボ ・災害時要支援者を支援できるシステムづくりを自治会内で検討 ・外国人のコミュニケーション向上策の検討 例：ごみ出しルール（外国版に翻訳）の周知 |
| <p>市全体に共通する課題</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・居場所づくり ・移動手段（免許返納、公共交通機関減少、デマンドタクシー） ・高齢者1人暮らし世帯の見守り支援 （特に相談に来れない方、地域に顔を見せない方） ・移動販売 ・災害時要支援者 ・出張包括の周知 |

地域活動の様子



子育てサロン 大藤こすもす（オンラインでつながる方法）



移動販売車による巡回販売

地域福祉懇談会 報告書

| | | | | |
|------|---|--|------------------|--------------------|
| 地 区 | 向笠地区 | | 福祉課担当 | 牧之瀬 輝 |
| | | | 市社協担当 | 宮司 恵 |
| 開催日 | 令和4年5月12日(木) 午後7時30分 ~ 午後8時50分 | | | |
| 会 場 | 向笠交流センター 体育館 | | | |
| テーマ | 高齢者福祉に関わる支援者の連携強化 | | | |
| 主 催 | 向笠社会福祉協議会 | | | |
| 参加者 | 41人 | | | |
| | 【内訳】・自治会長9人・地区社協役員3人・民生委員・児童委員8人 ・福祉委員14人(代理含む)・市議会議員1人・行政2人 ・交流センター1人・地域包括支援センター1人・市社協2人 | | | |
| 現状分析 | ※基準日：令和4年9月末現在(前計画策定年との比較 平成29年9月末現在) | | | |
| | 人 口 | 3,734人 (3,935人) | 年少人口 0~14歳 | 375人 (418人) |
| | 世 帯 数 | 1,520世帯 (1,516世帯) | 生産年齢人口 15~64歳 | 2,143人 (2,457人) |
| | 高齢化率 | 32.6% (26.9%) | 老年人口 65歳以上 | 1,216人 (1,060人) |
| | 自治会数 | 11自治会 (11自治会) | 上記のうち 75歳以上 | 529人 (443人) |
| | 地区の 生活課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・仲間づくり(孤立防止、サロンの在り方見直し) ・高齢者増による担い手の負担増 ・移動手段(高齢ドライバー、同乗の不安、公共交通機関無い) ・独居高齢者の支援(特に地域に顔を見せない方) ・福祉情報をどう得るか伝えるか(買い物支援、福祉制度やサービス、介護や認知症の知識) ・支援対象が高齢者のみに偏りがちであること(子ども、若者、障がい等にも目を向け、巻き込めないか) ・「福祉」の意識を特定の委員だけでなく自治会全体にも | | |
| | 地区の 社会資源 (施設) | 向笠小学校、向陽中学校、向笠幼稚園、向笠交番、郵便局、向笠交流センター、サンポス、お寺、神社、鶴ヶ池、桶ヶ谷沼、コンビニ3カ所、飲食店数軒、スズキ、中小企業、サポートハウス心愛、アソベル磐田 | | |
| | 地区の 社会資源 (活動) | 高齢者サロン(市社協登録サロン、出張生き生きサロン、その他自主グループ)、シニアクラブ、子育てサロン、その他交流センターで活動するクラブや団体、ふれあいまつり、盆踊り、秋祭り、向笠健康チャレンジ | | |

| | |
|---|--|
| <p>目指す姿 (こんな地区 にしたい)</p> | <p>地域福祉の向上と住民が支え合い助け合える地域を築くため、向笠に居住する子どもからお年寄りまで、安心して生活できる環境づくりを推進する。</p> |
| <p>地区に 必要な 社会資源 (こんな活動 があったら いいな)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 孤立、孤独になる前の仲間づくり ・ 福祉ペア制度（高齢者のみ世帯と若い世帯でペアをつくり、近隣住民同士で見守りあう仕組み） ・ 高齢者が気軽に集えるクラブ ・ 公会堂を開放した居場所 ・ 高齢者向けのスマホ教室 ・ ボランティアによる独居高齢者のゴミ出し支援 ・ デマンドタクシー以外の移動手段（例：袋井市の地域協働運行バス「かわせみ」等） |
| <p>今後の 取り組み (まずは何から 始める。何か らできる)</p> | <p>①地区社協主催で、懇談会参加者への報告を実施する。 <<予定>>・8/18 向笠福祉会議 ・9/7 向笠自治会長定例会 ・民生委員児童委員（向陽3地区出そろった時点で） 課題分析を含む報告とともに、既に課題解決に向けて取り組み始めている自治会（岩井原、新屋原）の取り組み事例を紹介。 ⇒報告内容や事例を参考に、自治会ごとで課題解決に向けて動き出すきっかけづくりをする。</p> <p>②関係機関と住民有志の協働で、【向笠おしゃべり会（仮）】を開催する。（時期未定） 以下2つのテーマについて、それぞれ住民有志の参加者を募り、向笠の課題について考える機会を持つ。 ・「みんながくらしやすい向笠を考えよう（仮）」 参加者イメージ：小学生～壮年熟期 ・「シニアをシニアで支えるために（仮）」 参加者イメージ：壮年熟期～シニア世代 ⇒参加者が地域課題を自分事として捉え、向笠の将来に向けて動き出すきっかけづくりをする。</p> |
| <p>市全体に 共通する 課題</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 仲間づくり（孤立防止、サロンの在り方見直し） ・ 高齢者増による担い手の負担増 ・ 移動手段（高齢ドライバー、同乗の不安、公共交通機関無い） ・ 独居高齢者の支援（特に地域に顔を見せない方） |

地域活動の様子



子育てサロン ごんげんキッズ



高齢者サロン 岩井原ふれあいサロン

地域福祉懇談会 報告書

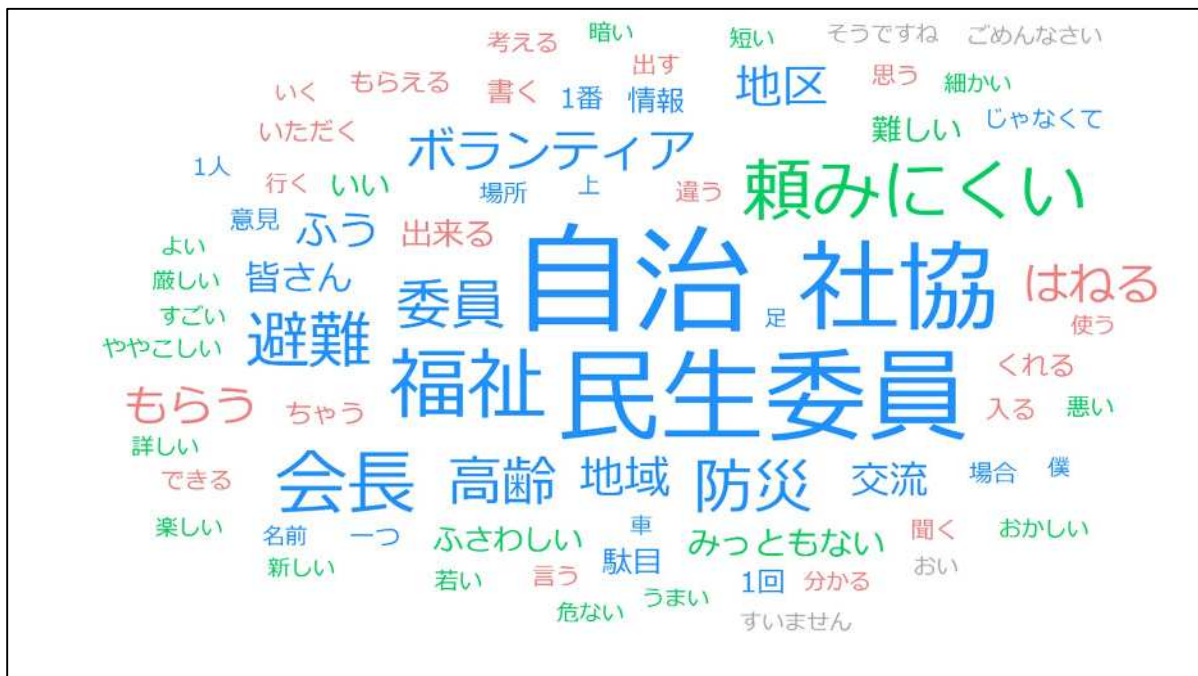
| | | | | |
|------|--|--|------------------|--------------------|
| 地 区 | 岩田地区 | | 福祉課担当 | 牧之瀬 輝 |
| | | | 市社協担当 | 林 雅之 |
| 開催日 | 令和4年6月18日(土) 午後1時30分 ~ 午後4時 | | | |
| 会 場 | 岩田交流センター | | | |
| テーマ | 岩田地区で元気に暮らすために 生活不安解消 | | | |
| 主 催 | 岩田地区社会福祉協議会 | | | |
| 参加者 | 50人 | | | |
| | <p>【内訳】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地区社協：会長1人、副会長5人、会計1人、監事2人、事務局長1人、事務局1人、理事8人（自治会長7人、交流センター1人）評議員21人（福祉委員18人、ひよこ世話人1人、子ども会会長1人、前地区社協会長1人） ほっとな地域づくり仕掛人1人 ・グループホーム苦楽舎1人 心愛つう1人 ・行政（福祉課、健康増進課）2人 城山向陽地域包括支援センター3人 ・市社協 2人 | | | |
| 現状分析 | ※基準日：令和4年9月末現在（前計画策定年との比較 平成29年9月末現在） | | | |
| | 人 口 | 2,001人 (2,111人) | 年少人口 0~14歳 | 260人 (300人) |
| | 世 帯 数 | 721世帯 (707世帯) | 生産年齢人口 15~64歳 | 1,106人 (1,214人) |
| | 高齢化率 | 31.7% (28.3%) | 老年人口 65歳以上 | 635人 (597人) |
| | 自治会数 | 8自治会 (8自治会) | 上記のうち 75歳以上 | 301人 (295人) |
| | 地区の 生活課題 | <ul style="list-style-type: none"> 身近な生活不安、課題の解消（通院、草刈り等） 健康に関する生活不安解消（健康寿命の延伸） 将来を見据えた地域活動の担い手づくり 送迎サービスの充実 災害時、独居・高齢世帯の避難 | | |
| | 地区の 社会資源 (施設) | <p>(地域の福祉活動の拠点となる施設等も含める)</p> <ul style="list-style-type: none"> 岩田交流センター、各自治会公会堂 こども園 ・小学校 グループホームくらくや ・心愛つう | | |
| | 地区の 社会資源 (活動) | <ul style="list-style-type: none"> リフレッシュの集い 地区自治会活動及びサロン活動（全8自治会） ひよこ（交流センター講座、未就園児と親の交流の場） | | |

| | |
|--|--|
| <p>目指す姿 (こんな地区にしたい)</p> | <ul style="list-style-type: none"> • お互い様の助け合い文化を引き継ぎする • 100歳まで元気で歩く健康寿命の延伸（介護予防）に挑戦する • こどもから高齢者まで地区行事に参加できる体制づくり • 緊急時の声掛ルールづくり等に取り組む • 活動の推進にあたり他団体との連携を積極的に図る |
| <p>地区に必要な社会資源 (こんな活動があったらいいな)</p> | <ul style="list-style-type: none"> • 隣近所の声掛け、見守り • せいかつ応援倶楽部の推進 岩田地区の内の支援員増員 • 健康教育や実践活動を通して戦略的に健康寿命延伸 • 生活習慣病に有効なウォーキングの推進 • 小中学生、高校生が参加しやすい行事の実施 • ボランティア等活動人材の育成、活動しやすい環境づくり • 60、70歳代への地区活動協力依頼、勧誘活動 • 近隣の高齢者を送迎するボランティアの育成 • デマンドタクシーの活用の推進 • 緊急時の声掛けルールづくり • 課題解決のための人材バンク • 緊急通報システムの活用推進 |
| <p>今後の取り組み (まずは何から始める。何かからできる)</p> | <ul style="list-style-type: none"> • 懇談会の実施報告と課題整理（地区社協役員会、交流センターだより） • 包括、福祉・医療機関とのケア会議実施 • せいかつ応援倶楽部の周知、支援員の募集、育成 • 健康寿命延伸を図るため健康教育や実践活動を実施 • ウォーキングコースの設定、安全快適な歩く環境づくり • ボランティア等活動人材の育成 • デマンドタクシーの周知と課題整理 • 運転ボランティアの高齢化、人材の減少に対する対応策の検討 • 災害時要支援者を支援できるシステムづくりを自治会、民生委員児童委員、福祉委員、地区社協が連携して検討 |
| <p>市全体に共通する課題</p> | <ul style="list-style-type: none"> • 高齢者の移動手段 (免許返納、公共交通機関減少、デマンドタクシー) • 高齢者1人暮らしの世帯の見守り支援 (特に相談に来られない方、地域に顔を見せない方) • 災害時要支援者 • 市が積極的に健康寿命の延伸に取り組む |

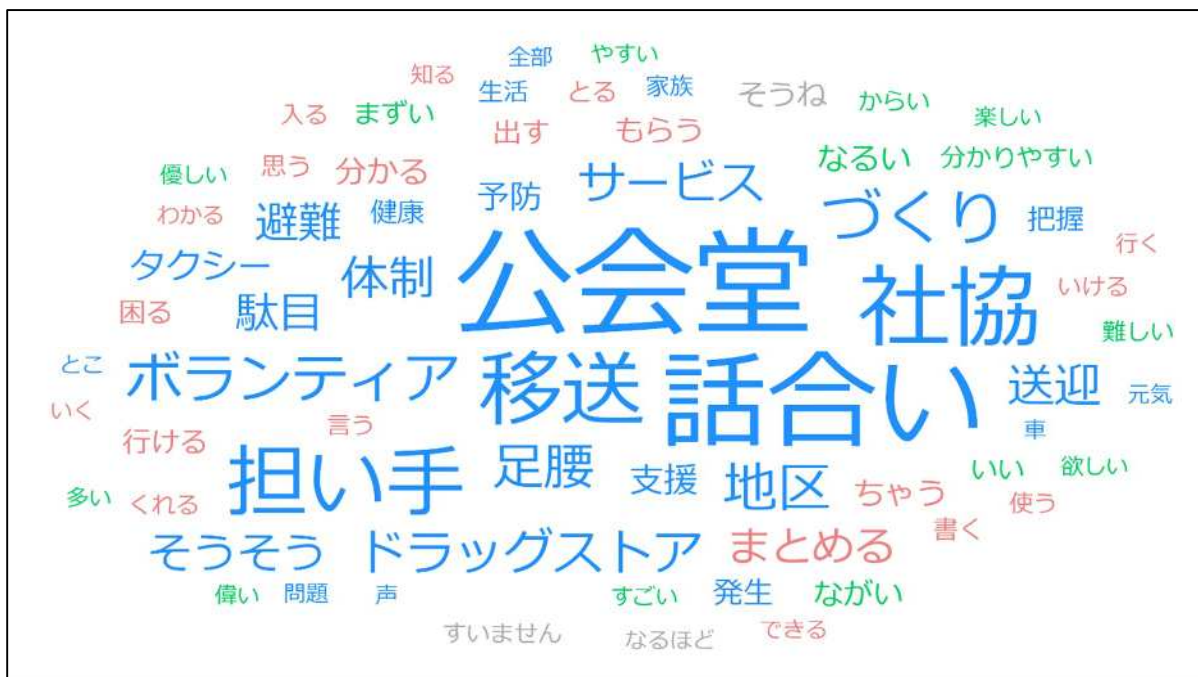
テキストマイニング

グループでの話し合いの内容が見える化したものです。出現頻度が高い単語ほど大きな字で表示されます。(単語の色：青…名詞 赤…動詞、緑…形容詞 灰…感動詞)

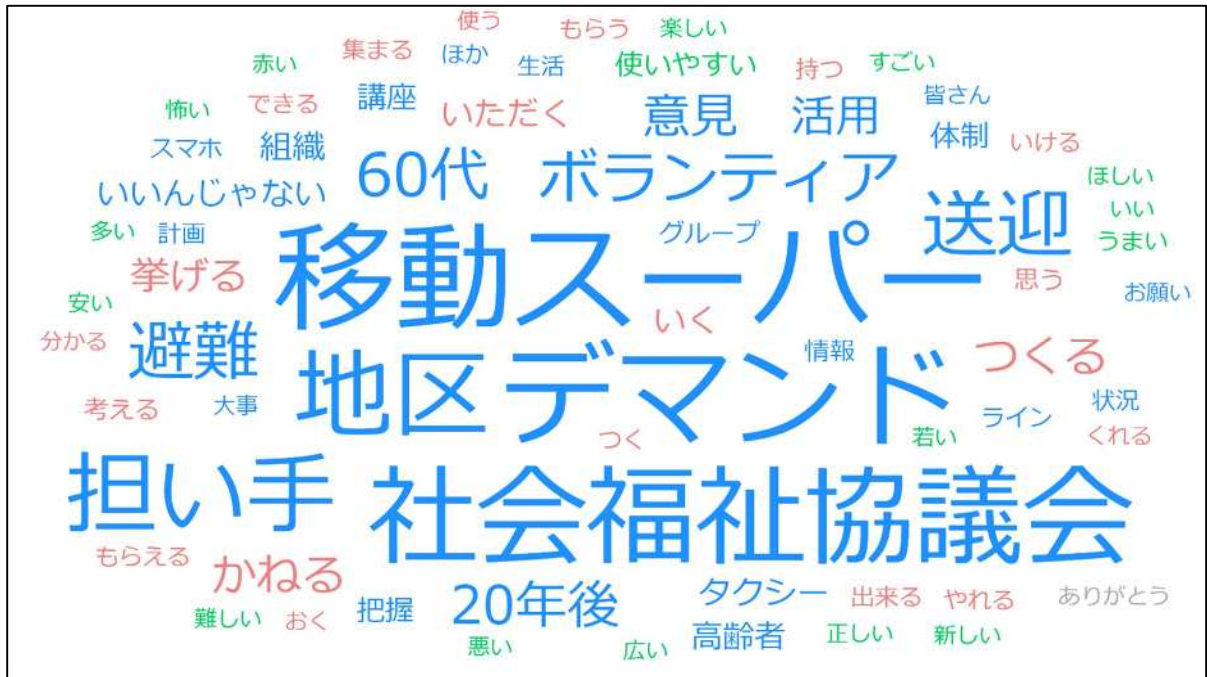
グループ1



グループ2



全体共有での話し合い



地域活動の様子



岩田地区 高齢者サロン交流会

地域福祉懇談会 報告書

| | | | | |
|------|--|--|------------------|--------------------|
| 地 区 | 西貝地区 | | 福祉課担当 | 内藤公則 |
| | | | 市社協担当 | 大杉昌弘 |
| 開催日 | 令和4年9月6日(火) 午後1時30分 ~ 午後3時30分 | | | |
| 会 場 | 西貝交流センター 2階会議室 | | | |
| テーマ | 暮らしの中の福祉課題の共有、こんな活動があるといいな | | | |
| 主 催 | 西貝地域づくり協議会福祉部 | | | |
| 参加者 | 16人 | | | |
| | <p>【内訳】</p> <p>地域づくり協議会会長、福祉部長・事務局長、地区社協会長 民生委員9、福祉委員4、きずな弁当1 子育てサロンふわふわ1 高齢者サロン陽だまりの会1 福祉課(内藤)、健康増進課(熊谷)、城山・向陽包括(鈴木詠司、中村)、 中部包括(山田)、市社協(林、大杉)</p> | | | |
| 現状分析 | ※基準日：令和4年9月末現在(前計画策定年との比較 平成29年9月末現在) | | | |
| | 人 口 | 6,445人 (6,517人) | 年少人口 0~14歳 | 924人 (1,003人) |
| | 世 帯 数 | 2,746世帯 (2,731世帯) | 生産年齢人口 15~64歳 | 3,986人 (4,100人) |
| | 高齢化率 | 23.8% (21.7%) | 老年人口 65歳以上 | 1,535人 (1,414人) |
| | 自治会数 | 5自治会 (5自治会) | 上記のうち 75歳以上 | 800人 (710人) |
| | 地区の 生活課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・団塊世代の住民が多く、ひとり暮らしや高齢者世帯が増えている。子どもは他県、他市町在住が多い。 ・高齢で足腰が弱り交流活動に参加できない方がいる。 ・移動やごみ出し等の日常生活に困る人が増えている。 | | |
| | 地区の 社会資源 (施設) | <ul style="list-style-type: none"> ・交流センター、自治会公会堂 ・城之崎公園、丸山公園、安久路公園、ひょうたん池 ・西貝保育園、いずみ第2保育園、西貝の郷、西之島の郷、シオンの家、うつくしの家西貝塚、そるとぼっと ・開業医、商店、コンビニ等 | | |
| | 地区の 社会資源 (活動) | <ul style="list-style-type: none"> ・子育てサロンふわふわ ・自治会高齢者サロン(4ヶ所) ・地区高齢者サロン(西貝陽だまりの会)・きずな弁当 ・老人クラブ ・趣味や健康づくりのサークル活動 ・地域づくり協議会各部会活動(環境美化活動、子ども見守り活動など地域安全活動、防災訓練や啓発、文化祭、体育祭、青少年健全育成活動) | | |

| | |
|--|---|
| <p>目指す姿 (こんな地区にしたい)</p> | <p>自治会や各活動団体が相互に連携しながら協働活動を行い、地域の健全な発展と福祉、文化の向上を図るとともに住民が安全で安心して生活できる地域づくりを目指す。</p> |
| <p>地区に必要な社会資源 (こんな活動があったらいいな)</p> | <ul style="list-style-type: none"> • 高齢者などの生活の足、移動支援 • 世代をこえて誰もが安心して過ごせる居場所、集い、憩いの場 • 人が繋がりやすい機会 • ちょっとしたことを助け合える、生活支援の活動 • 災害に備えた意識、声かけ • 住民の拠り所となる自治会公会堂の有効活用・機能拡大（上記の機会を提供し、実現できる社会資源として極めて適当な場となり得る） |
| <p>今後の取り組み (まずは何から始める。何かからできる)</p> | <ul style="list-style-type: none"> • 3世代（子育て世代、高齢者、その間の世代）を繋げるために、ジュピロ磐田を共通の仕掛けとしてイベントを企画。 • デマンドタクシーの使い勝手向上。 • 赤ちゃんから高齢者までだれもが利用できる「まちの保健室」の有効活用。 • 中部包括の出張相談、いま西貝で実施していないのは様子を見ているため。気軽に相談できる機会が増えたらよい。ワンストップで受け止める相談の必要性。 • ボランティアの高齢化と人材不足を解消するために、民生委員の年齢制限もサロンやきずな弁当のボランティア年齢制限なくして撤廃したらよい。元気な高齢者が多いので、活躍の機会を。 • 年金の問題。受給年齢上がり働いている人もいる。年齢によって元気の度合いも違う。 • コロナ禍こえて、活動再開。地域活動を始めないと収まらない。 |
| <p>市全体に共通する課題</p> | <ul style="list-style-type: none"> • 移動支援、生活の足の確保 • 生活支援、助け合い活動の推進 • 子育て支援活動の充実 • 世代をこえて交流できる居場所の増加 • コロナ禍をこえて地域活動を再開する方法の検討 |

懇談会の様子



地域福祉懇談会 報告書

| | | | | |
|------|---|---|------------------|--------------------|
| 地 区 | 御厨地区 | | 福祉課担当 | 内藤公則 |
| | | | 市社協担当 | 乗松悦代 |
| 開催日 | 令和3年12月3日(金) 午後7時～午後9時15分 (以降、令和4年度にかけて複数回にわたり話し合いを継続) | | | |
| 会 場 | 御厨交流センター | | | |
| テーマ | 誰もが安心して暮らすには？ ・暮らしの中の福祉課題や疑問の共有 ・こんな活動があるといいな | | | |
| 主 催 | 御厨地域づくり協議会地域福祉部会 | | | |
| 参加者 | 18人 | | | |
| | <p>【内訳】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部会役員 16人 自治会長、副自治会長、民生委員・児童委員、主任児童委員5人 所属団体の代表者（生活応援倶楽部、福祉委員会、保健委員会、 子ども若者健全育成会、地区子ども会）5人 地域づくり協議会会長1人 交流センター長1人 趣旨賛同者2人 ・市社協2人 (R4.6.29 福祉課、地区担当保健師、中部包括と情報共有) | | | |
| 現状分析 | ※基準日：令和4年9月末現在（前計画策定年との比較 平成29年9月末現在） | | | |
| | 人 口 | 3,761人 (3,458人) | 年少人口 0～14歳 | 681人 (668人) |
| | 世 帯 数 | 1,495世帯 (1,261世帯) | 生産年齢人口 15～64歳 | 2,318人 (2,114人) |
| | 高齢化率 | 20.3% (19.5%) | 老年人口 65歳以上 | 762人 (676人) |
| | 自治会数 | 6自治会 (6自治会) | 上記のうち 75歳以上 | 372人 (316人) |
| | 地区の 生活課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・御厨駅周辺の開発、宅地化に伴う人口及び世帯数増によりコミュニケーションが希薄化している地域がある。また、転入世帯と既居住世帯や、世代間のコミュニケーション不足の問題もある。 ・自治会ごとで人口構成が異なるため、抱える問題も異なる。新貝自治会は高齢化率が低いものの、子育て世帯を含め若い世代の問題は見えにくい。他の自治会は高齢化に伴う諸問題がある。 ・工事車両の往来、また、道路が新しく交差点等の危険箇所がいくつかある。 ・ゴミの出し方が徹底されていない。 | | |

| | | |
|--|---------------------|---|
| | 地区の 社会資源 (施設) | (地域の福祉活動の拠点となる施設等も含める) <ul style="list-style-type: none"> ・交流センター1 ・自治会公会堂・自治会館6 ・子育て支援センター1 ・駅、交番、郵便局各1 ・小学校、幼稚園、中学校各1 ・小規模保育所1 ・認可外保育施設2 ・個人病院2 ・サービス付き高齢者向け住宅(デイサービスセンター併設)1 他 |
| | 地区の 社会資源 (活動) | <ul style="list-style-type: none"> ・自治会6 ・高齢者サロン(地区1 自治会3) ・シニアクラブ(単位クラブ6、地区が会場になっている趣味クラブ3) ・子育てサロン1 ・いきいき百歳体操5 ・せいかつ応援クラブ 他 |

| | |
|---|--|
| 目指す姿 (こんな地区 にしたい) | 地区におけるすべての住民が安全で安心して暮らせるまち (部会規約より) |
| 地区に 必要な 社会資源 (こんな活動 があったら いいな) | <ul style="list-style-type: none"> ・地域課題の話し合いを幅広い所属、年代で行えるとよい。 ・防犯活動を行っている団体がつながり、活動調整できるとよい。 ・新貝公園が整備されれば、交流の場になる。 ・支援が必要な人の情報整理。 ・買い物支援、農地提供支援、高齢者の生活支援、話し相手。 ・サロン以外の子育て支援。 ・子どもの見守りが手厚く行われるとよい。(道路が新しく、信号機がないなど整備が不十分) |
| 今後の 取り組み | <ul style="list-style-type: none"> ・移動販売の調整支援を行い、買い物支援をする。 ・困りごとアンケートを実施して、今後の取組みを検討する。 |
| 市全体に 共通する 課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・応援倶楽部の支援員不足。 ・自治会等の人材不足(受け手がいない)。 ・共働き家庭の疲れ、地域行事へ参加するゆとりがない。 ・ゴミ出しに支援が必要な人の増加。 ・地域と接点を持たない人が多い。 |

懇談会の様子



話し合いから生まれた2つの活動

<高齢者の買い物支援（移動スーパー）>



<生活困りごとアンケート>

令和4年9月9日付
御厨地域づくり協議会会長 池原一雄
生活福祉部長 鈴木清彦

御厨地区生活困りごとアンケート

全戸回収します

日頃より御厨福祉部会の活動にご協力いただき、ありがとうございます。
本年度御厨福祉部会では、みなさんが豊穡の生活を営んでいる事、こうすれば地域の
活性化に繋がるのでは?と思うご意見などを参考に少しでも困窮を良くする活動に
結びつけようと考えています。
今回は、御厨地区の住民数・世帯数の増加と共に地区全体把握が難しくなり、
御厨福祉部会活動として、方向性を再認識する為の、実態把握のアンケート調査です。
「見える化」することで今後の活動に生かしていきたいと考えています。
皆様のご理解とご協力を宜しくお願いいたします。

該当する項目に○印をつけてください。

あなたについて

◆ あなた（アンケートに答える人）のことについて、お尋ねします。
アンケートに関してはご感想で差し支えお断いします。
あなたとは、アンケートを番組みんできていただく人を指します。

【1】記入者性別 ① 女性 ② 男性

【2】記入者年齢 ① 20代以下 ② 30代 ③ 40代 ④ 50代 ⑤ 60代 ⑥ 70代 ⑦ 80代以上

【3】家族構成 世帯の世帯構成を数えてください。世帯の人数()人
①、独居(単身) ②、一世代(両 夫婦) ③、二世代(両 父母+子) ④、三世代(両 祖父母
+父母+子) ⑤、四世代(両 祖父母+孫父母+父母+子) ⑥、その他()

【4】同居家族のなかで、以下の年齢や条件に当てはまる人がある場合は、○をつけてください。(あなたを除く)

| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ |
|-----|-------|-----|-----|--------|-------|---------------|----------------|
| 要件 | 小学生未満 | 小学生 | 中学生 | 0歳~74歳 | 75歳以上 | 障害のある家族 内は | 高齢で介護が必要 内は |
| 記入欄 | | | | | | | |

【5】地区名 ① 東河原 ② 長江 ③ 御中 ④ 御影 ⑤ 神原 ⑥ 新長

【6】調査年数 ① 1年未満 ② 5年未満 ③ 10年未満 ④ 15年未満 ⑤ 20年未満 ⑥ 20年以上

1

地域福祉懇談会 報告書

| | | | | |
|------|---|--|------------------|--------------------|
| 地 区 | 南御厨地区 | | 福祉課担当 | 内藤公則 |
| | | | 市社協担当 | 乗松悦代 |
| 開催日 | 令和3年10月9日(土) 午前9時30分～午前11時30分 (以降、令和4年度にかけて複数回にわたり話し合いを継続) | | | |
| 会 場 | 南御厨交流センター | | | |
| テーマ | 現在と未来の南御厨を考えよう ・福祉課題、生活課題の共有 ・今後の地区の取り組み | | | |
| 主 催 | 南御厨地区社会福祉協議会 | | | |
| 参加者 | 16人 | | | |
| | 【内訳】 ・部会役員 14人 福祉団体等代表（福祉委員会、シニアクラブ、高齢者サロン、配食サービス）4人 民生委員・児童委員代表 2人 地域づくり協議会役員等（副会長、理事、副理事）4人 交流センター長、センター職員 2人 趣旨賛同者他 2人 ・市社協 2人 （R4.1.22 から、地区長参加） （R4.6.29 福祉課、地区担当保健師、中部包括と情報共有） | | | |
| 現状分析 | ※基準日：令和4年9月末現在（前計画策定年との比較 平成29年9月末現在） | | | |
| | 人 口 | 3,100人 (3,416人) | 年少人口 0～14歳 | 382人 (457人) |
| | 世 帯 数 | 1,286世帯 (1,330世帯) | 生産年齢人口 15～64歳 | 1,616人 (1,927人) |
| | 高齢化率 | 35.5% (30.2%) | 老年人口 65歳以上 | 1,102人 (1,032人) |
| | 自治会数 | 8自治会 (9自治会) | 上記のうち 75歳以上 | 524人 (391人) |
| | 地区の 生活課題 | ・人口及び世帯数は減少傾向、高齢化率が高く、特に後期高齢者の増加が今後も見込まれ、支援が必要な人口に対し支え手となる人口が少ない。 ・担い手不足。 ・高齢化に伴い輪番制でできた自治会制度が難しくなる。 ・ゴミ出し支援。 | | |

| | | |
|--|-------------|---|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・日中独居の高齢者の見守り。 ・スマホが使えない、情報難民。 ・路線バスが撤退し、移動に困る。 ・買い物する場所が近くにない。 ・防災対応が不安。 ・若い世代が少なく、地域ボランティアが育たない。 ・外国人との生活様式の違い（地区人口の2割弱）。 |
| | 地区の社会資源（施設） | （地域の福祉活動の拠点となる施設等も含める） <ul style="list-style-type: none"> ・交流センター1 ・自治会公会堂・集会所等7 ・認定こども園1 ・託児所1 他 |
| | 地区の社会資源（活動） | <ul style="list-style-type: none"> ・自治会9 ・高齢者サロン（地区1 自治会4） ・シニアクラブ（単位クラブ4、地区が会場になっている趣味クラブ10） ・いきいき百歳体操4 ・配食サービス ・東新町サポートボランティアの会 他 |

| | |
|----------------------------|---|
| 目指す姿（こんな地区にしたい） | <ul style="list-style-type: none"> ・地域みんなでまちづくりを考える。 ・住民が心豊かに安心して暮らせるまちづくりを目指す。 |
| 地区に必要な社会資源（こんな活動があったらいいな） | <ul style="list-style-type: none"> ・交通の充実、交通弱者も地域対応ができる体制 ・通院、買い物支援、見守り活動 ・買い物ツアー、地域交流 ・近隣同士の助け合い ・世代間交流、親子ふれあいの場、若い人が集う場所 ・自治会での支え合い体制 ・居場所 ・外国人と共生できる地域 ・移動販売車までの買い物支援ボランティア ・地区にボランティアセンターを設置 ・地域に埋もれている人材の発掘 |
| 今後の取り組み（まずは何から始める。何かからできる） | <ul style="list-style-type: none"> ・出された課題を整理し、地区社協としての取組み課題の範囲を確認した。今後は課題を抱えている住民がどのくらいいるか調査をし、優先度を考えながら取り組んでいく予定。 ・移送支援については、地域づくり協議会が「公共交通の未来を考える会」を立ち上げ、話し合いを継続している。 |
| 市全体に共通する課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・移動に困難な住民の移送支援 ・ゴミ出し支援 ・担い手不足 |

懇談会の様子



<取組み課題仕分けの様子>



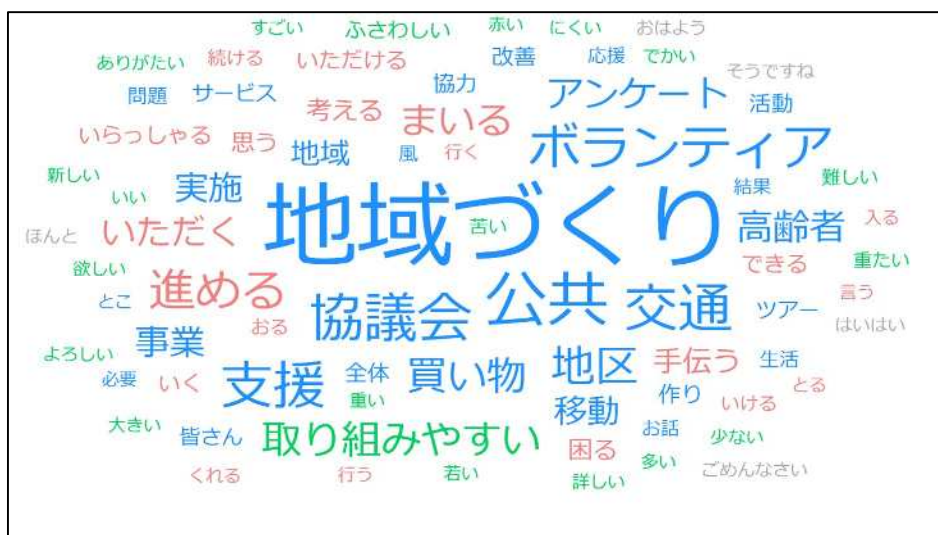
優先度と実現性で仕分けをしました。優先度の高低の判断は難しく、今後の課題になりました。



テキストマイニング

グループでの話し合いの内容を見える化したものです。出現頻度が高い単語ほど大きな字で表示されます。単語の色：青…名詞 赤…動詞 緑：形容詞 灰…感動詞

(R4.6.18 南御厨地区社会福祉協議会役員会の記録)



地域福祉懇談会 報告書

| | | | | | |
|------|---|--|------------------|--------------------|------|
| 地 区 | 田原地区 | | | 福祉課担当 | 内藤公則 |
| | | | | 市社協担当 | 大杉昌弘 |
| 開催日 | 令和4年8月20日(土) 午前10時～正午 | | | | |
| 会 場 | 田原交流センター 視聴覚室 | | | | |
| テーマ | A 地域の担い手養成（誰もが参加しやすい地域活動をすすめよう） B 居場所づくり（誰もが安心できる「心の居場所」をつくろう） C 見守り・潜在する困りごと（お互い見守られ誰もが孤立しない安心できる地域をつくろう） | | | | |
| 主 催 | 田原地区社会福祉協議会 | | | | |
| 参加者 | 14人 | | | | |
| | 【内訳】 ・地域づくり協議会地区長1人 ・地区社協会長1人 ・事務局長1人 ・民生委員・児童委員1人 ・主任児童委員1人 ・前福祉委員会会長1人 ・元シニアクラブ地区長1人 ・交流センター長1人 ・市議会議員1人 ・高齢者サロンかわせみの会2人 ・子育てサロンほっとポケット1人 ・みんなの居場所3世代ぷらっと2人 | | | | |
| 現状分析 | 基準日：令和4年9月末現在（前計画策定年との比較 平成29年9月末現在） | | | | |
| | 人 口 | 4,400人 (4,530人) | 年少人口 0～14歳 | 624人 (770人) | |
| | 世 帯 数 | 1,902世帯 (1,833世帯) | 生産年齢人口 15～64歳 | 2,817人 (2,869人) | |
| | 高齢化率 | 21.8% (19.67%) | 老年人口 65歳以上 | 959人 (891人) | |
| | 自治会数 | 6自治会 (6自治会) | 上記のうち 75歳以上 | 470人 (369人) | |
| | 地区の 生活課題 | ・核家族、高齢夫婦の世帯が増えている。 ・買物、通院、通いの場等への移動手段の課題がある。 ・子育てについて、気軽に話せる人や頼れる人が少ない。 ・高齢者等、生活のちょっとした困りごとを抱えている。 | | | |
| | 地区の 社会資源 (施設) | (地域の福祉活動の拠点となる施設等も含める) ・交流センター ・田原小、田原幼、風の森保育園 ・各自治会の公会堂、自治会館、老人憩いの家 ・デイサービス三ヶ野台 ・開業医、商店、コンビニ等 | | | |

| | | |
|--|------------------------------|--|
| | <p>地区の 社会資源 (活動)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・地域づくり協議会専門部会事業（環境・防犯交通安全・防災・自主防災・健全育成・女性・文化産業・体育・地区社協・福祉・保健・シニアクラブ・子ども会） ・交流事業（3大祭り、その他） ・救急医療情報キット ・子育てサロンほっとポケット ・みんなの居場所3世代びらっと ・シニアクラブ（5クラブ） ・交流センター主催講座 ・地区高齢者サロン田原かわせみの会 ・自治会高齢者サロン（2サロン） ・あいさつ運動 ・NPO 法人（2団体 スポーツクラブ田原、福茶会） |
|--|------------------------------|--|

| | |
|--|--|
| <p>目指す姿 (こんな地区 にしたい)</p> | <p>「子育て支援、高齢者にやさしいまち。 みんなで作ろう住み良い田原」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民の連携と協働により地域福祉を推進し、豊かなまちづくりを実行する。 ・子どもから高齢者まで、受け手だけでなく担い手としても活躍できる地域共生の根を下ろすまち。 |
| <p>地区に 必要な 社会資源 (こんな活動 があったら いいな)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・勤労者層～子ども若者の活躍の機会充実、青年リーダー養成 ・女性も男性も、その人のできることを活かした活躍機会の充実 ・役員や役員候補者のスキルアップ（パソコン講座、担い手養成） ・役員業務のマニュアル化、事業との分業化 ・多世代、子どもからお年寄りまで一同に会する機会や場の創出 ・高齢者の生活支援、移動支援、さりげない見守り活動 ・子育て世代が自由に交流できる、いつでも行ける場所 ・地域の中に自分の意見が言える（伝える）場所 |
| <p>今後の 取り組み (まずは何から 始める。何か らできる)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の担い手支援として、対話、役割分担、次世代の若者育成、活躍機会の拡大 ・さりげない話し相手、多種多様な居場所づくり ・居場所や通いの場と移動販売を合わせた取り組み ・コロナ禍を経た地域行事の「再起動」 ・地域団体の横の連携強化 ・地域住民の対話の継続実施 ・包括や子育て支援機関など相談できる場所の情報提供 |
| <p>市全体に 共通する 課題</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・孤立・孤独による弊害の解消（独居高齢者、老々介護・認知症、子育て世代、子ども若者、障がい、病気、貧困、ひきこもり等） ・子育て世代が気軽にコミュニケーションが取れる場所の確保 ・高齢者の移動支援、日常生活のちょっとした困りごとの支援 ・地域活動の役員の担い手不足、役割分担不足、活躍支援不足 |

地域福祉懇談会 報告書

| | | | | |
|------|---|---|------------------|--------------------|
| 地 区 | 今之浦地区 | | 福祉課担当 | 金子博則 |
| | | | 市社協担当 | 山田佳名子 |
| 開催日 | 令和4年10月4日(火) 午後2時 ~ 午後4時 | | | |
| 会 場 | 今之浦記念館 | | | |
| テーマ | 暮らしの中の福祉課題や疑問の共有・こんな活動があるといいな。 | | | |
| 主 催 | 今之浦まちづくり協議会 | | | |
| 参加者 | <ul style="list-style-type: none"> 福祉活動部 12人 行政（福祉課・健康増進課）3人、包括2人、市社協2人 | | | |
| | <p>【内訳】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域づくり協議会・自治会役員等 4人 民生委員・児童委員 3人 ・福祉委員 5人 行政 3人 ・地域包括支援センター 2人 ・市社協 2人 | | | |
| 現状分析 | ※基準日：令和4年9月末現在（前計画策定年との比較 平成29年9月末現在） | | | |
| | 人 口 | 2,149人 (2,188人) | 年少人口 0～14歳 | 295人 (268人) |
| | 世 帯 数 | 1,131世帯 (1,142世帯) | 生産年齢人口 15～64歳 | 1,474人 (1,635人) |
| | 高齢化率 | 17.6% (13.0%) | 老年人口 65歳以上 | 377人 (285人) |
| | 自治会数 | 5自治会 (5自治会) | 上記のうち 75歳以上 | 129人 (92人) |
| | 地区の 生活課題 | <ul style="list-style-type: none"> アパートが多く、定住しない 地域への愛着が薄い 2中学校区（磐田第一中学校・城山中学校）があり、学区割が複雑 地震・水害など災害が心配 人のつながりが分かりにくい | | |
| | 地区の 社会資源 (施設) | <p>(地域の福祉活動の拠点となる施設等も含める)</p> <ul style="list-style-type: none"> 今之浦記念館 今之浦公園 徒歩圏内に買い物施設、病院、飲食店がある 公共交通の便が良い（車がなくても生活できる） 道路が走りやすい | | |
| | 地区の 社会資源 (活動) | <ul style="list-style-type: none"> 人口が増えている 高齢者サロン「今之浦てまり会」がある 子育て広場「いっちゃん広場」がある いきいき百歳体操がある | | |

| | |
|--|--|
| <p>目指す姿 (こんな地区 にしたい)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・何でも話せる環境を作りたい。 ・誰とでもあいさつができ、笑顔のある地区にしたい ・誰でも安心して、楽しく、共助できる地区にしたい |
| <p>地区に 必要な 社会資源 (こんな活動 があったら いいな)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者への生活支援として、高齢者宅へ市役所チャンネルを設けたテレビをつなぐ ・高齢者へタブレットを支給 ・今之浦地区内巡回バス ・男性の力を活用する ・自由に使えるサロン（将棋・無料 Wi-Fi・カラオケ大会） ・花の会で公園に花壇を ・定期的なクリーン作戦 ・今之浦地区としてのイベント |
| <p>今後の 取り組み (まずは何から 始める。何か らできる)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は懇談会を開催し、その結果をフィードバックする。 ・地区で共有し、来年度以降も継続して話し合いの場を持つ ・高齢化が少しずつ進んでいるので、生きがいの場づくりをしたい ・学区が異なるので、両方の学区の子どもとの顔合わせ、話し合える会を開きたい。 |
| <p>市全体に 共通する 課題</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・巡回バスなどの移動手段の問題 ・サロン（子ども・高齢者）の参加者が増えない ・ここ数年コロナで地域行事が減り、多世代が交流する機会が減った（祭りや、防災訓練の中止など） |

地域活動の様子



高齢者サロン 今之浦てまり会

地区別懇談会 報告書

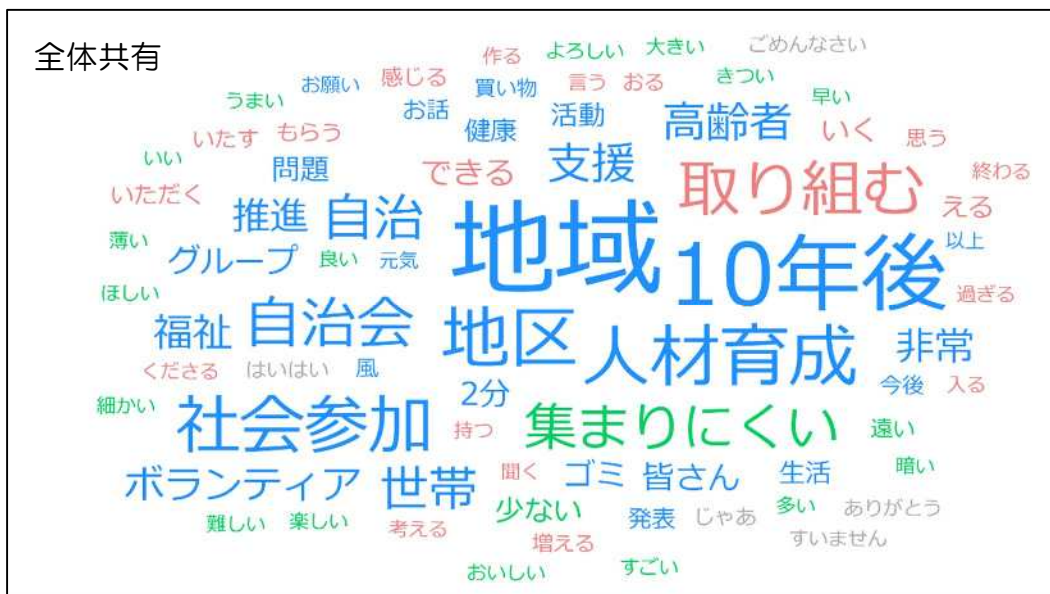
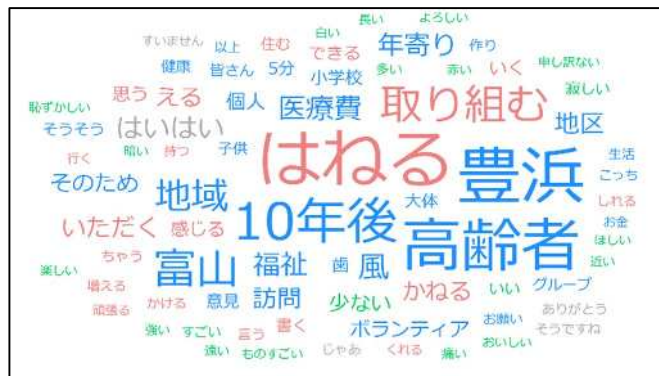
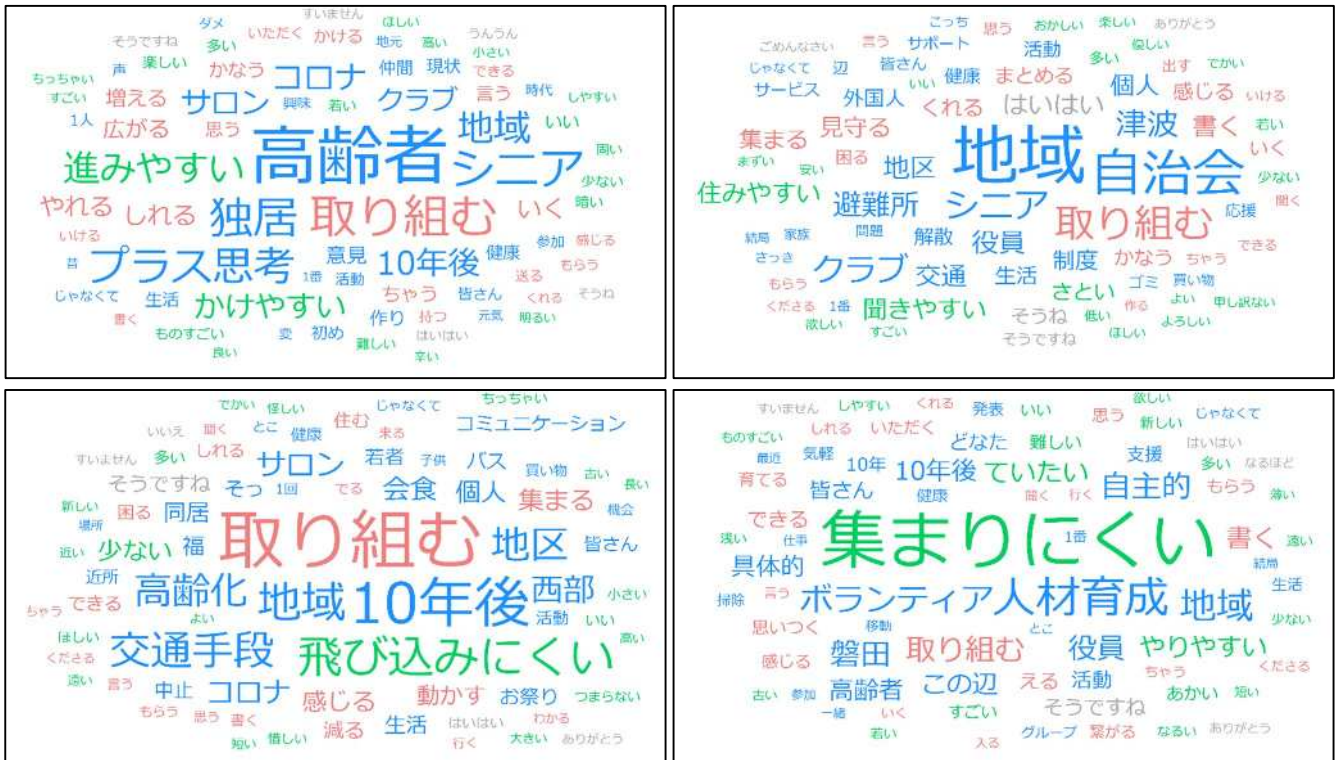
| | | | | |
|------|---|---|------------------|---------------------|
| 地 区 | 福田地区 | | 福祉課担当 | 牧之瀬 輝 |
| | (西部、北部、福田中、福田南、豊浜) | | 市社協担当 | 上原あゆみ |
| 開催日 | 令和4年7月29日(金) 午前10時 ~ 午後12時 | | | |
| 会 場 | 磐田市福田支所 3階大会議室 | | | |
| テーマ | 10年後の福田地区での生活をイメージして、今からできること | | | |
| 主 催 | ふくでの福祉を推進する会 & 磐田市社会福祉協議会 | | | |
| 参加者 | 29人 | | | |
| | 【内訳】 ・ふくでの福祉を推進する会 4人 ・地域づくり協議会 10人 ・福田せいかつ応援倶楽部コーディネーター&支援員 3人 ・福田子育てサロン“あいうえお”スタッフ 2人 ・民生委員・児童委員 4人 ・福祉委員 5人 ・行政 3人 ・地域包括支援センター 2人 ・市社協 2人 | | | |
| 現状分析 | ※基準日：令和4年9月末現在 (前計画策定年との比較 平成29年9月末現在) | | | |
| | 人 口 | 17,060人 (17,854人) | 年少人口 0~14歳 | 1,651人 (1,932人) |
| | 世 帯 数 | 6,961世帯 (6,539世帯) | 生産年齢人口 15~64歳 | 9,857人 (10,581人) |
| | 高齢化率 | 32.5% (29.9%) | 老年人口 65歳以上 | 5,552人 (5,341人) |
| | 自治会数 | 47自治会 (47自治会) | 上記のうち 75歳以上 | 2,872人 (2,730人) |
| | 地区の 生活課題 | ・高齢者や免許返納後の移動手段(買い物、通院) ・買い物ができる場所が、地域によってはない。 ・地域の担い手不足(高齢化、若い人が戻ってこない) ・空き家が増えている ・独居者(高齢者だけでなく)が増えて、見守りが必要 ・ゴミ出しルールが守られない ・人との交流が減り、地域のつながりが希薄化(コロナの影響もある) ・少子化による小学校の統廃合⇒地域の拠点がなくなる ・ホッとできる場所、集える場所が少ない | | |
| | 地区の 社会資源 (施設) | (地域の福祉活動の拠点となる施設等も含める) ・福田中央交流センター、福田南交流センター 豊浜交流センター | | |

| | | |
|--|---------------------|---|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・福田中学校、福田小学校、豊浜小学校 福田こども園、子育てセンターみなみしま 子育て支援センターふわっと、ほのぼの ・福田図書館 ・はまぼう公園、ふくなか広場、南島体育館 ・リフレU ・福寿荘、福浜会、ふれあい荘、えひめ ふくでハッピーハンズ、たんぼぼ作業所 ・JA 福田支店、JA 豊浜プラザ |
| | 地区の 社会資源 (活動) | <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者サロン 26 カ所 子育てサロン 1 カ所 ・百歳体操 17 カ所 シニアクラブ 16 団体 ・買い物支援（豊浜ふくの市、JA ときめきマルシェ、杏林堂とくし丸） ・ふくでせいかつ応援倶楽部 ・ふくでふれあいまつり |

| | |
|---|--|
| 目指す姿 (こんな地区 にしたい) | <ul style="list-style-type: none"> ・健康で、いつまでも自分のことは自分でやれる人が多い地域 ・気軽に挨拶、話せる、集える、近所つきあいがある地域 ・若い人が住みたい！と思える地域 |
| 地区に 必要な 社会資源 (こんな活動 があったら いいな) | <ul style="list-style-type: none"> ・身近に買い物ができる場所 ・空き家を利用して、多世代で集える居場所 ・シニアカーの無料貸出 ・地域防災のための拠点（福田中学校の校舎） ・保存食を定期的に入れ替えるシステム ・地域が自主性をもった交通手段（循環バス、送迎サービス） ・訪問医療の充実 ・婚活 |
| 今後の 取り組み (まずは何から 始める。何か らできる) | <ul style="list-style-type: none"> ・現在取り組んでいる健康活動の継続 ・福田の魅力を PR して、若者が住みたいと思ってもらう ・買い物支援活動の継続、必要な地域への支援・協力 |
| 市全体に 共通する 課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化による ・地域の担い手不足 ・地域づきあいの希薄化。コロナになって、さらに交流が減った。 ・独居者（高齢者だけでなく）が増え、地域づきあいもなく孤立した生活をする方が増えている。困った時、災害時にどうする？ |

テキストマイニング

グループでの話し合いの内容を見える化したものです。出現頻度が高い単語ほど大きな字で表示されます。(単語の色：青…名詞 赤…動詞、緑…形容詞 灰…感動詞)



懇談会の様子



地域福祉懇談会 報告書

| | | | | |
|------|---|---|------------------|----------------------|
| 地 区 | 竜洋地区 | | 福祉課担当 | 内藤公則 |
| | | | 市社協担当 | 打桐清乃 |
| 開催日 | 令和4年6月22日(水)・24日(金) 午後7時～午後8時45分 | | | |
| 会 場 | 竜洋交流センター | | | |
| テーマ | 社会的孤立を防ぐために ～孤立しない多様なしくみを考えよう～ | | | |
| 主 催 | 竜洋地区社協 | | | |
| 参加者 | 93人 | | | |
| | 【内訳】 ・地域づくり協議会福祉部（地区社協等） 9人 ・民生委員・児童委員 33人 ・福祉委員 44人 ・行政（福祉課、竜洋支所、地区担当保健師）3人 ・地域包括支援センター 3人 ・市社協 1人 | | | |
| 現状分析 | ※基準日：令和4年9月末現在（前計画策定年との比較 平成29年9月末現在） | | | |
| | 人 口 | 18,287人 (18,912人) | 年少人口 0～14歳 | 1,902人 (2,207人) |
| | 世 帯 数 | 7,720世帯 (7,390世帯) | 生産年齢人口 15～64歳 | 10,483人 (11,131人) |
| | 高齢化率 | 32.3% (29.5%) | 老年人口 65歳以上 | 5,902人 (5,574人) |
| | 自治会数 | 39自治会 (39自治会) | 上記のうち 75歳以上 | 3,066人 (2,602人) |
| | 地区の 生活課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・買物、通院等の移動手段 ・空き家問題 ・子ども達の長期休暇等時の居場所 ・個人情報に関連から、情報の共有化の困難さ ・近所、隣同士のコミュニケーションの不足 ・自治会内の役員同士の連携 ・気軽に寄れる場所がない ・担い手、リーダー不足 | | |
| | 地区の 社会資源 (施設) | （地域の福祉活動の拠点となる施設等も含める） <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者施設（白寿園、五洋の里、竜洋の家、香寿、小春日和磐田、ラクラス掛塚） ・幼稚園1、保育園2、小学校3、中学校1 ・障害施設（あゆみ、NPO ここつみ） ・竜洋交流センター、竜洋西会館 | | |

| | | |
|--|-------------|--|
| | | <ul style="list-style-type: none"> • なぎの木会館 • 竜洋図書館 • 子育て支援センターこどもの家 • 竜洋体育センター • しおさい竜洋 |
| | 地区の社会資源(活動) | <ul style="list-style-type: none"> • シニアクラブ(16) • 高齢者サロン(8+2) • いきいき百歳体操7か所 • ひまわりの郷(居場所) • 竜洋せいかつ応援クラブ • こども食堂1か所 • 子育てサロンのママサークル1、地区の子育てイベント • お祭り 他 |

| | |
|--------------------------------|---|
| 目指す姿 (こんな地区にしたい) | 孤立しない・させない地区 |
| 地区に必要な社会資源 (こんな活動があったらいいな) | <ul style="list-style-type: none"> • 気軽に、挨拶・声掛けができる取り組み • 自らが、社会とのつながりを持つ意識 • 趣味活動を通してつながれる地区 • 歩いていける場に常設型居場所の設置 |
| 今後の取り組み (まずは何から始める。何かからできる) | <ul style="list-style-type: none"> • 個々人のやってみたい参加したいの気持ちを活かし、参加しやすい環境、雰囲気作りが必要。 • 意見交換する機会、ゲーム等を通して考える機会など住民の意識、自分事として学び・共有することが必要。 • リーダー養成 |
| 市全体に共通する課題 | <ul style="list-style-type: none"> • 気軽に通院や買い物に行ける移動手段 • 地域のリーダー育成に協力 • 自治会加入の必要性 |

地域活動の様子



中学生の手話学習と地域行事での披露



地域福祉懇談会の様子

中学生以上全住民アンケート 報告書

| | | | | |
|------|---|--|------------------|--------------------|
| 地 区 | 豊田東地区 | | 福祉課担当 | 内藤公則 |
| | | | 市社協担当 | 小栗伸介 |
| 実施期間 | 令和4年2月13日(日) ~令和5年1月22日(日) | | | |
| 主 催 | 豊田東地区まちづくり協議会 住民アンケート実行委員 構成(8人) ・地区正副会長 ・地区社協会長 ・健全育成会会長 ・南部中学校PTA正副会長 ・元自治会長 ・交流センター長 ・地区社協前会長 ・市社協(SC) | | | |
| 参加者 | 2,716人 (アンケート回収数) ・回収率 87% | | | |
| 現状分析 | ※基準日：令和4年9月末現在(前計画策定年との比較 平成29年9月末現在) | | | |
| | 人 口 | 4,596人 (4,190人) | 年少人口 0~14歳 | 787人 (723人) |
| | 世 帯 数 | 1,767世帯 (1,551世帯) | 生産年齢人口 15~64歳 | 2,723人 (2,558人) |
| | 高齢化率 | 23.6% (21.7%) | 老年人口 65歳以上 | 1,086人 (909人) |
| | 自治会数 | 7自治会 (6自治会) | 上記のうち 75歳以上 | 511人 (387人) |
| | 地区の 生活課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・災害時の備えや避難 ・自治会などの地域活動 ・日常の買い物が不便なこと ・農地の維持管理 | | |
| | 地区の 社会資源 (施設) | (地域の福祉活動の拠点となる施設等も含める) <ul style="list-style-type: none"> ・豊田東幼稚園、ハッピー保育園、こども園こうのとり富丘、子育てセンターとみがおか、豊田東小学校 ・松ぼっくり、たんぽぽ ・豊田一空園、グループホーム笑円、デイサービスまどか、訪看ステーション富丘、ニチケアセンターいわた、サンサン磐田東原(就労支援B) ・高齢者サロン(1地区5自治会)、百歳体操 ・豊田東せいかつ応援倶楽部 ・豊田東交流センター、各自治会公会堂 ・地域づくり協議会 | | |

| | |
|---|--|
| 目指す姿 (こんな地区 にしたい) | 豊田東地区のこれからについて「わがこと」としてとらえ、行動することで、安心して暮らせる地区 |
| 地区に 必要な 社会資源 (こんな活動 があったら いいな) | <ul style="list-style-type: none"> • 子どもの安全を支える活動 • 高齢者の買い物や通院などの移動支援活動 • 地域活動への住民参加 |
| 今後の 取り組み (まずは何から 始める。何か らできる) | <ul style="list-style-type: none"> • 全住民アンケート結果の全戸配布 • アンケート結果を受けての課題の整理 (アンケート実行委員会を拡大して検討する) • アンケートの記入意見について、自治会へ課題を返していく • 豊田東まちづくりワークショップ |
| 市全体に 共通する 課題 | <ul style="list-style-type: none"> • 安全な通学路や道路の確保 • 買い物・通院等の移動支援 • 農地の維持管理(雑草等) • 地域住民として自助・互助(共助)の意識づけ |

豊田東地区 地域活動の過不足(年代別)

活動が足りない
↑
活動ができていない

| | 10～20代 | 30～50代 | 60～70代 | 80～90代 |
|-----|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1位 | 子育て支援活動 43.2% | 子どもの居場所づくり 50.9% | 農地維持や荒廃解消活動 54.9% | 農地維持や荒廃解消活動 54.7% |
| 2位 | 子どもの居場所づくり 40.9% | 移動支援活動 50.7% | 移動支援活動 51.9% | 日常的な悩みが相談できる場 52.4% |
| 3位 | 防災活動 37.1% | IT活用した住民向け広報・連絡 50.4% | 防災活動 49.3% | 移動支援活動 49.5% |
| 4位 | 日常的な悩みが相談できる場 36.0% | 子育て支援活動 47.9% | 高齢者生活支援活動 48.3% | 高齢者生活支援活動 41.8% |
| 5位 | 防犯活動 33.8% | 高齢者生活支援活動 43.9% | 防犯活動 46.1% | 子どもの居場所づくり 37.0% |
| 6位 | 移動支援活動 33.8% | 防災活動 39.7% | 子どもの居場所づくり 45.1% | 防災活動 36.2% |
| 7位 | 農地維持や荒廃解消活動 33.4% | 防犯活動 39.4% | 消防活動 42.9% | 消防活動 33.4% |
| 8位 | 消防活動 33.0% | 消防活動 37.0% | 子育て支援活動 42.6% | 環境保全活動 30.8% |
| 9位 | IT活用した住民向け広報・連絡 30.2% | 日常的な悩みが相談できる場 35.0% | 日常的な悩みが相談できる場 41.4% | 子どもの安全を支える活動 30.7% |
| 10位 | 環境保全活動 29.2% | 交通安全活動 32.1% | 環境保全活動 34.7% | 防犯活動 29.6% |
| 11位 | 高齢者生活支援活動 27.9% | 子どもの安全を支える活動 30.6% | 交通安全活動 33.1% | 子ども対象の活動 29.0% |
| 12位 | 交通安全活動 23.1% | 農地維持や荒廃解消活動 30.5% | 子ども対象の活動 29.5% | 子育て支援活動 28.7% |
| 13位 | 子どもの安全を支える活動 22.8% | 環境保全活動 26.6% | 子どもの安全を支える活動 28.3% | 交通安全活動 26.0% |
| 14位 | 広報誌回覧板による情報提供 19.1% | 子ども対象の活動 24.9% | 広報誌回覧板による情報提供 23.7% | 広報誌回覧板による情報提供 19.2% |
| 15位 | 子ども対象の活動 17.3% | 広報誌回覧板による情報提供 23.5% | IT活用した住民向け広報・連絡 21.0% | IT活用した住民向け広報・連絡 15.4% |
| 16位 | 高齢者対象行事 15.6% | 生涯学習や生きがいづくり活動 8.4% | 健康づくり活動 17.0% | 生涯学習や生きがいづくり活動 12.6% |
| 17位 | 健康づくり活動 10.3% | 健康づくり活動 6.7% | 生涯学習や生きがいづくり活動 15.2% | 健康づくり活動 10.5% |
| 18位 | 秋祭りなどのイベント 9.5% | 高齢者対象行事 5.2% | 高齢者対象行事 6.8% | 高齢者対象行事 3.6% |
| 19位 | 生涯学習や生きがいづくり活動 7.8% | 秋祭りなどのイベント -11.0% | 秋祭りなどのイベント 0.0% | 運動会などの体育行事 -1.2% |
| 20位 | 運動会などの体育行事 4.6% | 運動会などの体育行事 -23.4% | 運動会などの体育行事 -16.3% | 秋祭りなどのイベント -5.9% |

地域福祉懇談会 報告書

| | | | | |
|---------------------|---|--|------------------|--------------------|
| 地 区 | 井通地区 | | 福祉課担当 | 大橋あゆみ |
| | | | 市社協担当 | 磯部直志 |
| 開催日 | 令和4年7月20日(水) 午後7時 ~ 午後8時30分 | | | |
| 会 場 | 豊田福祉センター 3階大会議室 | | | |
| テーマ | 「安心して井通地区で暮らしていくために」 | | | |
| 主 催 | 井通地区社会福祉協議会 | | | |
| 参加者 | 41人 | | | |
| | <p>【内訳】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域づくり協議会・自治会役員等 5人 ・地域づくり協議会福祉部（地区社協等） 3人 ・民生委員・児童委員 5人 ・福祉委員 22人 ・福祉課 1人 ・健康増進課 1人 ・地域包括支援センター2人 ・市社協2人 | | | |
| 現状分析 | ※基準日：令和4年9月末現在（前計画策定年との比較 平成29年9月末現在） | | | |
| | 人 口 | 7,851人 (8,333人) | 年少人口 0～14歳 | 1,073人 (1,326人) |
| | 世 帯 数 | 3,247世帯 (3,255世帯) | 生産年齢人口 15～64歳 | 4,220人 (5,492人) |
| | 高齢化率 | 27.6% (26.4%) | 老年人口 65歳以上 | 2,169人 (2,379人) |
| | 自治会数 | 12自治会 (13自治会) | 上記のうち 75歳以上 | 1,079人 (950人) |
| | 地区の 生活課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・単身高齢者、高齢者世帯が孤立しがちである。 ・支援の必要な人を十分把握しきれていない。 ・子育て世帯を、地域で支えていく仕組みが不十分。 ・誰でも集える居場所がない。 | | |
| | 地区の 社会資源 (施設) | <p>(地域の福祉活動の拠点となる施設等も含める)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・井通交流センター ・豊田南中学校 ・豊田南小学校 ・豊田南こども園 ・各自治会の公会堂 ・豊田えいせい病院 ・開業医、商店、コンビニ等 | | |
| 地区の 社会資源 (活動) | <ul style="list-style-type: none"> ・井通地域づくり協議会 ・子育てサロンいどおりっこ広場 ・自治会高齢者サロン(10サロン) ・救急医療情報キッド | | | |

| | |
|--|---|
| <p>目指す姿 (こんな地区にしたい)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 困りごと悩み相談など、地域での助けあえる仕組みがある。 ・ 家に、こもりがちな高齢者の支援ができる新たな施策を進める。 ・ こども食堂ができれば、老人でも利用できようになりたい。 ・ 見守り活動の強化、救急医療キッドの活用を進めたい。 ・ 家に閉じこもりにならず、各個人、活動的になるよう常に働きかける。 ・ 防犯、防災活動の活性化を進めたい。 ・ 運転免許を返納した後の移動手段を充実させたい。 ・ 携帯パソコンを持っていない人にもやさしい地域にしたい。 ・ 地域の行事に気軽に参加できるように声かけできる地域にしたい。 |
| <p>地区に必要な社会資源 (こんな活動があったらいいな)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会の名簿のデータ化、自主防災会に提供できるようにしたい。 ・ 要支援者の情報を把握し、特に単身高齢者の定期的に見守りをする。 ・ そっと、陰から見守りできる体制。 ・ アミューズ豊田、にこっと、かたりあに高齢者が移動する手段の確保。 ・ 困りごと悩み相談、ゴミ出し、力仕事ができない高齢者に助けあいの仕組み。 ・ こども食堂的な高齢者版の開催。 |
| <p>今後の取り組み (まずは何かから始める。何からできる)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの虐待実態の情報収集を考えたい。 ・ 地区活動の目標への理解、見守り対象の把握、協力団体の発掘。 ・ 見守り、子育ての視点で、子どもとの関わりを持つ。 ・ 行事の参加者を増やすこと。 ・ 登下校の見守りの人手不足の解消。 ・ サロン活動の支援者を増やす取り組み。 |
| <p>市全体に共通する課題</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 運転免許を返納した後の移動手段の確保。 ・ 困りごと悩みなど、地域での助けあえる仕組みづくり。 |

地域活動の様子



高齢者サロン（上新屋なかよしサロン）



子育てサロン（いどおりっこ広場）

地域福祉懇談会 報告書

| | | | | |
|---------------------|--|---|------------------|--------------------|
| 地 区 | 青城地区 | | 福祉課担当 | 大橋あゆみ |
| | | | 市社協担当 | 磯部直志 |
| 開催日 | 令和4年10月1日(土) 午後7時 ~ 午後9時 | | | |
| 会 場 | 青城交流センター | | | |
| テーマ | 『安心して青城地区で暮らしていくために』 どんな取り組みが必要か、やってみたいか、考えてみよう！ | | | |
| 主 催 | 青城地区まちづくり協議会 | | | |
| 参加者 | 19人 | | | |
| | 【内訳】 ・まちづくり協議会・自治会役員等 3人 ・まちづくり協議会福祉部会（地区社協等）3人 ・まちづくり協議会 防犯部会 7人 交流部会 1人 健全育成部会 1人 ・市社協 1人 ・福祉課 1人 ・健康増進課 1人 ・地域包括支援センター 1人 | | | |
| 現状分析 | ※基準日：令和4年9月末現在（前計画策定年との比較 平成29年9月末現在） | | | |
| | 人 口 | 8,892人 (9,197人) | 年少人口 0～14歳 | 1,164人 (1,326人) |
| | 世 帯 数 | 3,672世帯 (3,536世帯) | 生産年齢人口 15～64歳 | 5,243人 (5,492人) |
| | 高齢化率 | 27.9% (25.9%) | 老年人口 65歳以上 | 2,485人 (2,379人) |
| | 自治会数 | 13自治会 (13自治会) | 上記のうち 75歳以上 | 1,191人 (970人) |
| | 地区の 生活課題 | ・単身、高齢者世帯が増えている。 ・生活上の困りごとを気軽に相談できる場所がない。 ・子育てについて気軽に相談できる人が少ない。 | | |
| | 地区の 社会資源 (施設) | （地域の福祉活動の拠点となる施設等も含める） ・青城交流センター ・青城小学校 ・青城こども園 ・各自治会公会堂 ・豊田ゆうあいの里 ・開業医、商店、コンビニ等 | | |
| 地区の 社会資源 (活動) | ・青城地区まちづくり協議会(福祉部会、防犯交通部会 交流部会、健全育成部会) ・子育てサロン青城っこ広場 ・シニアクラブ(3クラブ) ・自治会高齢者サロン(9サロン) ・救急医療情報キッド | | | |

| | |
|--|--|
| <p>目指す姿 (こんな地区にしたい)</p> | <p>『安心して青城地区で暮らせる地域』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ちょっとした困りごとを気軽に相談でき、お互い助け合える地域。 ・お年寄りや子育て世代が気軽に立ち寄れる場所がある地域。 ・子どもやお年寄りを地域ぐるみで見守りをする地域。 |
| <p>地区に必要な社会資源 (こんな活動があったらいい)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・子ども食堂、おとな食堂、シニア食堂 ・高齢者などの居場所「フレンドリータイム」 ・地区内の要支援者の把握を常にできる仕組み ・男性の参加者が多くなる通いたくなる高齢者サロン ・次世代が活動の担い手となれる人材育成の仕組み |
| <p>今後の取り組み (まずは何から始める。何かからできる)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・地域行事への積極的参加をし、子どもの把握、見守りをする。 ・子育てサロンが、母子の身近な見守りになるよう実施する。 ・交流センターを利用して、高齢者の居場所を設置する。 ・住民の意見、地域の現状、困りごとをアンケートにより行う ・どのような人が、どのようなことに困っているのか明確にする。 ・活動が決まったら、漠然とした目標ではなく、数値目標を示す。 ・買い物支援、ゴミ出し支援の必要世帯の把握をする。 ・シニアクラブ活動が活性化するための方法を考える。 ・家庭防災の日の徹底し、防災装備、実体験伝承、一時避難所の周知をする。また防災講座を年代別に開催する。 ・サロン活動に参加して方は男性が少ないので、男性参加を増やす内容とする。 ・会話が出来るように道路沿いに長イスのベンチを配置するとよい。 ・活動に参加する人数を増やし、よい人材を探したい。 ・買物の移動手段が不便、会員制のボランティアタクシーを検討する。 ・男性だけのサロン活動を実施してみる。 ・民生委員・福祉委員が同席し1人住まいの人達の集会を開く。 ・居場所作りのため、公民館を常時開ける。 ・子供の見守り（登下校時）をする。 ・大きな自治会には交通指導隊を設けたい（既存自治会は立野宮之一色、下万能、赤池） ・回覧板は手渡しでする。 ・子供の帰宅時間に合わせて散歩し、見守りをする。 ・小学生、中学生の定期交流会。 |
| <p>市全体に共通する課題</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・生活に困窮する家庭の問題を解決する。 ・健康づくりのための環境整備。ウォーキングコースなど。 ・使い勝手のよいデマンドタクシーにする。 ・引きこもっている人が来所できるような居場所があるとよい。 ・次世代の人材育成が今後の重要事項である。 |

地域活動の様子



高齢者サロン 銀杏の会



高齢者サロン なかよしサロン気子島



子育てサロン 青城っこ広場

地域福祉懇談会 報告書

| | | | | |
|------|--|--|------------------|--------------------|
| 地 区 | 富岡地区 | | 福祉課担当 | 内藤公則 |
| | | | 市社協担当 | 小栗伸介 |
| 開催日 | 令和4年12月18日(日) | | | |
| 会 場 | 富岡交流センター 講堂 | | | |
| テーマ | 将来の地域課題を話し合い、グループワークを通して共有 | | | |
| 主 催 | 富岡創生協議会、富岡地区社会福祉協議会 | | | |
| 参加者 | 36名 | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・自治会長 ・富岡創生協議会役員 ・福祉委員 ・富岡交流センター長 | | | |
| 現状分析 | ※基準日：令和4年9月末現在（前計画策定年との比較 平成29年9月末現在） | | | |
| | 人 口 | 4,578人 (4,658人) | 年少人口 0～14歳 | 622人 (714人) |
| | 世 帯 数 | 1,592世帯 (1,594世帯) | 生産年齢人口 15～64歳 | 2,588人 (2,576人) |
| | 高齢化率 | 31.1% (29.3%) | 老年人口 65歳以上 | 1,337人 (1,368人) |
| | 自治会数 | 10自治会 (11自治会) | 上記のうち 75歳以上 | 707人 (609人) |
| | 地区の 生活課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・独居高齢者や高齢者のみ世帯が増えること ・自家用車の運転が不安な人が増えること ・災害時への備えや避難に関すること | | |
| | 地区の 社会資源 (施設) | <p>(地域の福祉活動の拠点となる施設等も含める)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊田北保育園 ・あいむ保育園 ・豊田北部幼稚園 ・ながふじ学府小中一体校(豊田中学校・豊田北部小学校) ・かるみあ豊田(障害児放課後デイ) ・加茂円寿会(シニアクラブ) ・高齢者サロン(地区、3自治会) ・サンシティ豊田(グループホーム) ・ゆやの里(ケアハウス・小規模多機能型居宅介護 等) ・えいせい加茂デイサービス ・えいせいデイサービスめぐみ | | |

| | |
|--|---|
| <p>目指す姿 (こんな地区にしたい)</p> | <ul style="list-style-type: none"> 自分たちでできることは、自分たちで取り組んでいくことができる地域 |
| <p>地区に必要な社会資源 (こんな活動があったらいいな)</p> | <ul style="list-style-type: none"> 地域の中で気軽に集まる場や話し合う機会 (=居場所) 高齢者の買い物や通院の移動支援 |
| <p>今後の取り組み (まずは何から始める。何かからできる)</p> | <ul style="list-style-type: none"> 自治会活動や地域での活動がなぜ必要なのかを知ってもらう 元気であるために、健康づくりの知識を学んだり、活動をしたりする機会を増やす。 |
| <p>市全体に共通する課題</p> | <ul style="list-style-type: none"> 買い物・通院等の移動支援 地域住民として自助・互助(共助)の意識づけ |

地域福祉懇談会等 報告書

| | | | | |
|------|---|---|-------------------|----------------------|
| 地 区 | 池田地区 | | 福祉課担当 | 内藤公則 |
| | | | 市社協担当 | 小栗伸介 |
| 開催日 | 令和4年9月～11月（アンケート実施期間） | | | |
| 会 場 | アンケート形式で課題集約 | | | |
| テーマ | 地域の課題の明確にして解決につなげる。 ～今の課題と、10年後の地域の課題～ | | | |
| 主 催 | 池田地区社会福祉協議会 | | | |
| 参加者 | 回答者 78 人 | | | |
| | 【内訳】 ・民生委員・児童委員 ・福祉委員 ・自治会役員（自治会長、組長 など） | | | |
| 現状分析 | ※基準日：令和4年9月末現在（前計画策定年との比較 平成29年9月末現在） | | | |
| | 人 口 | 4,481 人 (4,546 人) | 年少人口 0～14 歳 | 624 人 (674 人) |
| | 世 帯 数 | 1,864 世帯 (1,764 世帯) | 生産年齢人口 15～64 歳 | 2,602 人 (2,736 人) |
| | 高齢化率 | 28.0% (25.0%) | 老年人口 65 歳以上 | 1,255 人 (1,136 人) |
| | 自治会数 | 4自治会 (4自治会) | 上記のうち 75 歳以上 | 601 人 (475 人) |
| | 地区の 生活課題 | ・独居高齢者や高齢者のみ世帯が増えること ・自家用車の運転が不安な人が増えること ・災害時への備えや避難に関すること | | |
| | 地区の 社会資源 (施設) | ・池田せいかつ応援クラブ ・松寿会（シニアクラブ） ・高齢者サロン（地区、4自治会） ・グループホーム桜寿 ・えいせい加茂デイサービス ・えいせいデイサービスめぐみ ・豊田西保育園 ・キッズわくわく（障害児放課後デイ） ・子育てサロンHODO HODO ・池田交流センター ・熊野伝統芸能館 ・各自治会公会堂 | | |

| | |
|--|--|
| <p>目指す姿 (こんな地区にしたい)</p> | <ul style="list-style-type: none"> • 誰もが安心して生活をしていくことができる地区 • 地域の様々な活動への住民参加 |
| <p>地区に必要な社会資源 (こんな活動があったらいいな)</p> | <ul style="list-style-type: none"> • 独居高齢者への見守り活動の拡大 • 買い物、通院等の移動支援 |
| <p>今後の取り組み (まずは何から始める。何かからできる)</p> | <ul style="list-style-type: none"> • みんなのカフェの再開（まちの保健室開催時） • 民生委員・児童委員と福祉委員の顔合わせ |
| <p>市全体に共通する課題</p> | <ul style="list-style-type: none"> • 買い物・通院等の移動支援 • 地域住民として自助・互助（共助）の意識づけ |



池田南ふれあいサロン（R元年8月 多世代交流）

アンケート調査(池田地区集計)

令和4年12月

問1 お住まいの地区で活動をしている中で、地域住民から不安に感じていること、困っていることを聞いたことがありますか？

(あてはまるものすべてに○、よく聞くことには◎)

| | 30代以下 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代以上 | 不明 | 合計 |
|------------------------------------|-------|-----|-----|-----|-------|----|----|
| 1. 健康に関すること | | 4 | 1 | 16 | 10 | | 31 |
| 2. 家族の介護に関すること | | 3 | | 9 | 3 | | 15 |
| 3. 家族・親族との関係に関すること | | 1 | | 1 | 3 | | 5 |
| 4. 子育てに関すること | 1 | 3 | | 1 | 2 | | 7 |
| 5. 教育や進学に関すること | | 2 | 1 | | | | 3 |
| 6. 仲間や地域の人と気軽に集まる場所がないこと | | 1 | | 3 | 4 | | 8 |
| 7. 食事づくり、洗濯、ゴミ出しなど日常生活のこと | | 1 | 1 | 6 | 5 | | 13 |
| 8. 庭作業や電気器具・家具の修理、粗大ごみの処理などの軽作業のこと | | | | 4 | 2 | | 6 |
| 9. 農地の維持管理のこと | | 1 | | 1 | 4 | | 6 |
| 10. 話し相手がないこと | | | | 3 | 3 | | 6 |
| 11. 生活の維持が苦しいこと | | 1 | | 6 | 1 | | 8 |
| 12. 看病や世話をしてくれる人がいないこと | 1 | | 1 | 3 | 2 | | 7 |
| 13. 緊急時の相談先がない、知らないこと | | | | | 5 | | 5 |
| 14. 日常の買い物が不便なこと | | 1 | | 1 | | | 2 |
| 15. 通院・買い物が不便なこと | | 1 | | 1 | 4 | | 6 |
| 16. 自家用車の運転に不安があること | | 1 | 1 | 8 | | | 10 |
| 17. 地域のお付き合いや自治会などの地域活動に関すること | 1 | 2 | 2 | 5 | 6 | | 16 |
| 18. 地域内における空き家の増加 | | 1 | 1 | 10 | 6 | | 18 |
| 19. 災害時への備えや避難に関すること | | 4 | 4 | 13 | 7 | | 28 |
| 20. 特にない | 1 | 7 | 5 | 5 | 6 | 2 | 26 |

問2 お住まいの地区で生活をしたり、活動をしたりする中で、10年後に地域の課題になりそうと思うことは何ですか？

(あてはまるものすべてに○、特にそう思うことには◎)

| | 30代以下 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代以上 | 不明 | 合計 |
|--------------------------------------|-------|-----|-----|-----|-------|----|----|
| 1. 家族の介護に関すること | | 3 | 3 | 14 | 12 | | 32 |
| 2. 家族・親族との関係に関すること | | 1 | | 3 | 7 | | 11 |
| 3. 子育てに関すること | 1 | 5 | | 3 | 2 | | 11 |
| 4. 仲間や地域の人と気軽に集まる場所がないこと | | 1 | | 3 | 2 | | 6 |
| 5. 食事づくり、洗濯、ゴミ出しなど日常生活に支援が必要な人が増えること | | 2 | 1 | 10 | 7 | | 20 |
| 6. 農地の維持管理のこと（耕作放棄地が増える） | | 1 | | 5 | 5 | | 11 |
| 7. 話し相手がないこと | | 1 | | 4 | 3 | 1 | 9 |
| 8. 生活の維持が苦しい人が増えること | 1 | 2 | 2 | 10 | 5 | | 20 |
| 9. 介護・看病・世話をしてくれる人がいない世帯が増えること | | 2 | 5 | 12 | 12 | | 31 |
| 10. 高齢者の一人暮らし世帯や高齢者のみの世帯が増えること | 2 | 12 | 11 | 27 | 21 | | 73 |
| 11. 緊急時の相談先がない、知らないこと | 2 | 1 | 1 | 7 | 3 | | 14 |
| 12. 日常の買い物が不便になる人が増えること | | 2 | | 13 | 10 | | 25 |
| 13. 通院・買い物が不便になる人が増えること | | 3 | 1 | 13 | 14 | | 31 |
| 14. 自家用車の運転が不安な人が増えること | 1 | 5 | 9 | 15 | 13 | | 43 |
| 15. 地域のお付き合いや自治会などの地域活動が低下すること | 1 | 4 | 4 | 12 | 11 | | 32 |
| 16. 地域内における空き家が増加すること | | 3 | 3 | 12 | 8 | | 26 |
| 17. 災害時への備えや避難に関すること | 1 | 4 | 4 | 15 | 12 | | 36 |
| 18. その他（ ） | | 1 | 1 | 2 | | | 4 |
| 19. 特にない、わからない | | 1 | 1 | 2 | 2 | 1 | 7 |

回答者数：78名

地域福祉懇談会 報告書

| | | | | |
|------|---|--|------------------|--------------------|
| 地 区 | 豊岡地区 | | 福祉課担当 | 金子博則 |
| | | | 市社協担当 | 干場翔平 |
| 開催日 | 令和4年5月19日(木) 午後7時30分 ~ 午後8時30分 | | | |
| 会 場 | 豊岡中央交流センター 多目的ホール | | | |
| テーマ | 安心して豊岡地区で暮らしていくために | | | |
| 主 催 | 豊岡地区社会福祉協議会 | | | |
| 参加者 | 25人 | | | |
| | 【内訳】 ・地区社協等 19人 ・健康増進課地区担当保健師 2人 ・地域包括支援センター 3人 ・市社協 1人 | | | |
| 現状分析 | ※基準日：令和4年9月末現在（前計画策定年との比較 平成29年9月末現在） | | | |
| | 人 口 | 10,704人 (11,032人) | 年少人口 0~14歳 | 1,309人 (1,462人) |
| | 世 帯 数 | 3,922世帯 (3,722世帯) | 生産年齢人口 15~64歳 | 5,856人 (6,027人) |
| | 高齢化率 | 33.1% (31.2%) | 老年人口 65歳以上 | 3,539人 (3,399人) |
| | 自治会数 | 30自治会 (30自治会) | 上記のうち 75歳以上 | 1,792人 (1,728人) |
| | 地区の 生活課題 | 【過去に実施したアンケート結果などから】 ・買い物支援 ・交通手段 ・役員等の後継者不足 など | | |
| | 地区の 社会資源 (施設) | (地域の福祉活動の拠点となる施設等も含める) ・支所、2か所の交流センター、南部会館など公共施設 ・高齢者施設、障害者施設、子育て支援センター ・ベイシア、カインズ、ウェルシア、元気村など商業施設 | | |
| | 地区の 社会資源 (活動) | ・地区社協活動（応援倶楽部、配食、健康講座など） ・サロン活動（高齢者、障害者）、シニアクラブ活動 ・いきいき百歳体操 ・自治会活動、行事 ・夏まつり、蝉時雨の盆、リポートスクール等のイベント | | |

| | |
|---|--|
| 目指す姿 (こんな地区 にしたい) | 住民同士がつながり、多世代交流がある地区 いつまでも住み続けることができる地区 豊岡地区の魅力を知り、伝えることができる地区 |
| 地区に 必要な 社会資源 (こんな活動 があったら いいな) | <ul style="list-style-type: none"> ・ちょっと集まっておしゃべりできる居場所 ・子育て世代への支援、子どもや子育て世代と高齢者との交流 ・買い物支援 ・外出支援 ・豊岡地区を知る活動 ・豊岡地区の魅力を伝える活動 ・後継者不足の解消 |
| 今後の 取り組み (まずは何から 始める。何か らできる) | <ul style="list-style-type: none"> ・今回の結果を地区で共有する ・地区に必要な社会資源で挙げた活動について検討。1つひとつを次回以降の住民懇談会のテーマとし、議論を深める。 |
| 市全体に 共通する 課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・居場所づくり ・多世代交流 ・買い物支援 ・外出支援 ・後継者不足 |

1 グループ

| 今できていること・やっていること(地域の強み再確認) | どんな取り組みが必要かやってみたいか |
|---|--|
| 【個人】 <ul style="list-style-type: none"> ・近所の高齢者への声掛け ・一人暮らし高齢者のデイサービス送迎時の確認 ・いきいき百歳体操 ・子どもの見守り活動 ・子どもへのあいさつ ・豊岡キッズに参加 ・子育て支援センターに通う ・サロン(ゆずりは)の活動 ・草刈り、清掃 ・自治会の花壇の管理 ・自治会の行事、係への参加 ・健康診断を受ける | 【個人】 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者世帯への声掛け支援 ・介護保険、介護認定の説明 ・子育てママの集まる場所 ・サロン参加者が楽しくできる環境づくり ・自治会内でサロンを開催したい ・障害者への支援 ・自宅近くの道路美化 |
| 【地域】 <ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らし高齢者の見守り ・グラウンドゴルフ ・敬老会 ・子育て支援センター ・まちの保健室 ・赤ちゃん訪問 ・サロンの継続 ・せいかつ応援倶楽部の支援 ・配食サービスボランティアに参加 ・市の花の会に参加。花壇の手入れ ・住民活動の活性化(やまびこ会) ・天空の館周辺の美化 | 【地域】 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の買い物支援 ・自治会内で担当を決め介護保険、介護認定の説明 ・サロン等へ地区の方が参加できる工夫 ・外の人に遊びに来てもらえる地区にしたい ・居場所づくり。ちょっと集まっておしゃべりする場所 |

2グループ

| | |
|--|--|
| 今できていること・やっていること(地域の強み再確認) | どんな取り組みが必要かやってみたいか |
| 【個人】 <ul style="list-style-type: none"> ・同じ班の高齢者と話す ・高齢者宅への訪問 ・シニアクラブへ参加 ・子どもたちにあいさつ声掛け ・せいかつ応援倶楽部の支援員 ・福祉委員活動 ・防災の役員 ・エアロビックに参加 ・健康めざし隊で歩いている ・介護保険の紹介、支援 | 【個人】 <ul style="list-style-type: none"> ・豊岡地区のことを知ること ・住民とのコミュニケーションをとる ・50～60代の方にサロンのお手伝い参加働きかけ ・包括の紹介 |
| 【地域】 <ul style="list-style-type: none"> ・シニアクラブでグラウンドゴルフ ・いきいき百歳体操 ・地区サロンの推進 ・配食サービスボランティア ・地域の防災訓練 ・自治会の公園整備、草刈り ・花の会で水やり、草取り ・ヨガ体操 ・近くの人と公園でラジオ体操 ・まちの保健室 ・同じ班内の人たちで会食、旅行 ・お日待ち。2か月に1回おしゃべり ・介護医療との相談窓口、講演会の企画 | 【地域】 <ul style="list-style-type: none"> ・ほかの人の話を聞き、学ぶ意欲を持つ ・サロンへの訪問 ・サロンへ行くための交通手段 ・買い物サービス ・70代くらいの新たな集いの場 ・定期的に会う場所 ・家族以外の人と会話する場 ・子ども会と高齢者のコラボ。世代間の交流 ・住民全員に包括を知ってもらう |

3グループ

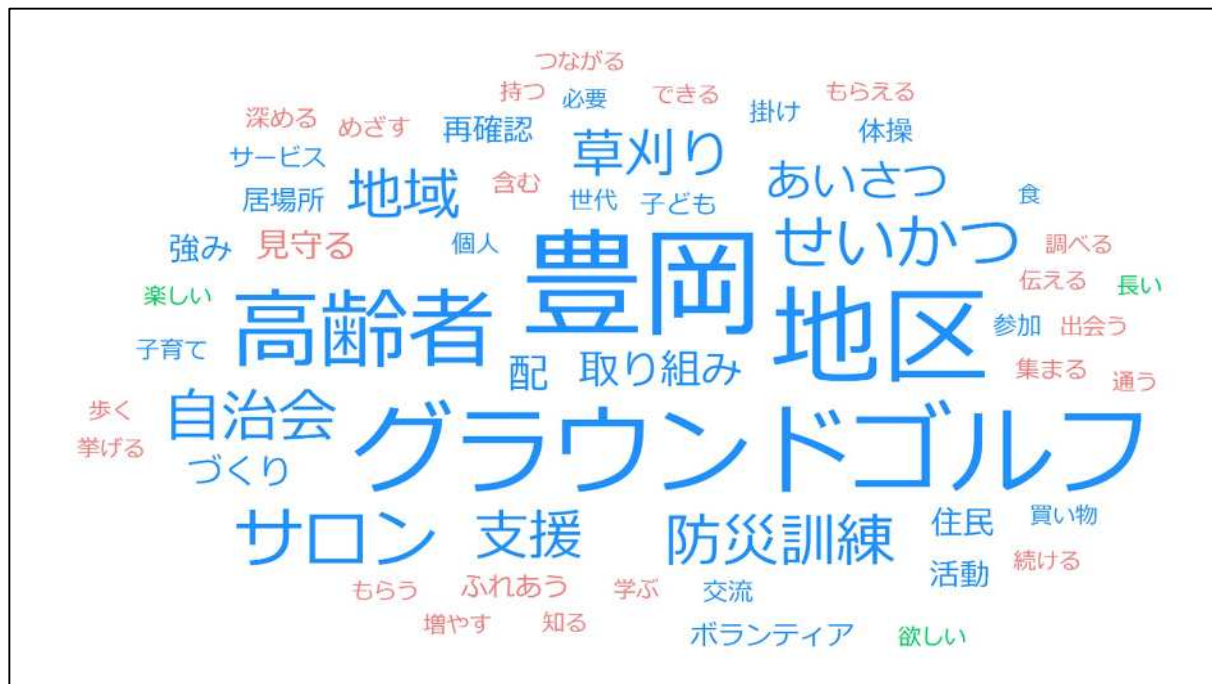
| | |
|--|--|
| 今できていること・やっていること (地域の強みを再確認) | どんな取り組みが必要か やってみたいか |
| 【個人】 <ul style="list-style-type: none"> ・隣近所と会話 ・あいさつ運動に参加 ・お宮の草刈り ・交通安全 ・家具の固定 ・防災用品の備蓄 ・おうちコープの宅配利用 ・インディアカに参加 | 【個人】 <ul style="list-style-type: none"> ・近所とのつながり ・地域の人とのつながり ・若い人と高齢者の話し合い ・障害者を含んだ防災訓練 ・高齢者を含んだ防災訓練 ・子育て親子を含んだ防災訓練 ・認知症、フレイル予防活動 ・運動習慣をつけるような働きかけ |
| 【地域】 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者サロンの開催 ・グラウンドゴルフ ・子どもたちの見守り ・道路の草刈り ・せいかつ応援倶楽部の支援 ・配食サービスボランティア ・中学生以上アンケート調査 | 【地域】 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の見守り ・高齢者宅の草刈り ・シニアクラブの人数を増やす ・川の掃除 ・防災講座の開催 ・買い物支援 ・交通手段 ・地域の人と人とのつながり ・集まる場所、ふれあいの場所 |

4グループ

| | |
|--|---|
| 今できていること・やっていること(地域の強み再確認) | どんな取り組みが必要かやってみたいか |
| 【個人】 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の見守り活動 ・子どもの見守り活動 ・子どもへのあいさつ ・ウォーキング ・山歩き ・出会った人へあいさつ、声掛け ・図書館で野草、野鳥を調べる ・6人でラジオ体操(お話し) | 【個人】 <ul style="list-style-type: none"> ・豊岡地区を歩いてみたい ・子どもたちと歩きたい ・豊岡地区の川・池の魚を調べたい ・今の状態が長く続けられるための対策 ・雨垂の谷、さわがに、蛭など地域を知り、地域に興味を持ってもらう。子どもも参加。 |
| 【地域】 <ul style="list-style-type: none"> ・サロン活動 ・グラウンドゴルフ ・あいさつ運動 ・いきいき百歳体操 ・子ども110番の家 ・さわやかエブリデイ ・配食サービスボランティア ・せいかつ応援倶楽部の支援 ・地域の花壇整備 【地域の強みなので長く続けられるようにしたい】 | 【地域】 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の外出支援 ・買い物支援 ・多世代交流 ・居場所づくり。歩いて行ける場所に ・天竜川の河川敷の整備。グラウンドゴルフ場を。 ・体力づくりでプールが欲しい ・興味を持ってもらえる広報。ボランティアの魅力が伝わる広報。 ・包括の周知 【すべての活動が後継者不足】 |

テキストマイニング

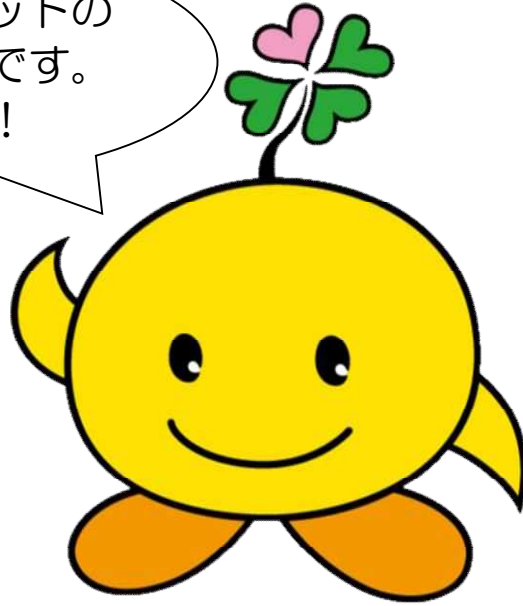
グループでの話し合いの内容を見える化したものです。出現頻度が高い単語ほど大きな字で表示されます。(単語の色：青…名詞 赤…動詞、緑…形容詞 灰…感動詞)



懇談会の様子



市社協マスコットの
「ふくぴー」です。
よろしく！



社会福祉法人 磐田市社会福祉協議会



磐田市社協ホームページ

<https://www.iwatashakyo.or.jp/>



フェイスブック

<https://www.facebook.com/iwatashakyo/>



インスタグラム

<https://www.instagram.com/iwatashakyo/>



〒438-0077 磐田市国府台 57 番地 7

^{あい}i プラザ (磐田市総合健康福祉会館) 1 階

電 話 0538-37-4824 (総務係)

0538-37-9617 (地域福祉係)

0538-37-4864 (生活支援係)

F A X 0538-37-4866